

# 婦人徳



第六卷  
第九號

東京  
弘道館

首

婦人と子ども 第六卷第九號目次

卷首 睦しき眷族

婦人と子ども

婦人と成功……………湘南…一

現今の風紀問題に就て女高師教授東基吉…二

選夫選妻の説……………温香堂主人…四

贈送につきて……………わけぼの…二〇

實驗上の育児……………醫學博士 瀨川昌耆…二二

子を持てる親方への注意……………わたなべ…二六

遠く慮りて近く行へ……………湘南漁子…二九

幼児に課する遊嬉の種類……………芙蓉生…二〇

新夫婦の理科問答……………本郷生…二三

割烹……………石井泰次郎…二五

割烹用前掛……………第一高女校教諭岡本ちか子…二七

掃除の方法……………醫學士 竹中成憲…二九

アメリカの寺小屋……………朝露生…三三

雑録 數件

子ども

お日さま……………一

福藏と貧助……………硯山人…二

慾ばつた罰……………彌彦八

小兒科專門 小原頼之先生校閱  
女子高等師範學校教授東基吉先生編著

製本既成

# 新案 育兒日誌

●子ある家庭には必備の寶典

本書は東先生が從來我國に記入の完全なる育兒日記の簡便なるが附録發達の時等より小兒の病氣、病室、營養、食物の如きも至れり盡せりといふべし。子どもある家庭には是非とも備へざるべし。品書は最も適切文明的なる。

注意!

本書の定價は殆んど白紙の代價に等し。白紙の代價を以てして有益無比の本書は購求せらるべきなり。

發 兌 元

東京市京橋區南大工町一番地

弘 道 館

(電話本局二八四〇番)

(舶來上等紙摺)  
洋裝美本 紙數凡そ四百五十頁

定價四十錢(總クローズ) (全一冊)

特製五十錢(香皮洋裝) (全一冊)



郵 稅 各 八 錢

●大好評嘖々の新刊書●

學習院女學部長 下田歌子女史新著

# 女子の修養

和裝全一冊  
頗ル美本  
正價金七拾錢  
郵税金八錢

廿世紀女子教育の生粹  
新家庭經營整理の寶鑑

本書は著者が女子教育の往々形式のみに流れ其の實質を失ふの憾あるを慨き嶄新の學理を緯とし平素の經驗を經としてものせられたるもの文章平易所說懇篤凡そ廿世紀に處する女學生及び閨秀の本分を全ふせんを期するもの須く本書なかる可からざるなり

發 兌 元

東京京橋區南大工町一番地

弘 道 館

電話本局二八四〇番

前付二

りわに店籍書の名有の處る到國全は店捌賣

第五回國內勸業博覽會賞牌及褒狀受領

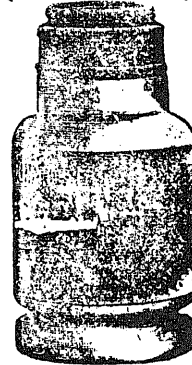
登錄商標



牌標券功會評品會二五



THE BEST MADE  
**SUMIRE**  
VIOLET PASTE  
製煉トツレオイワサ  
入器子硝白乳附蓋湯  
ん好しお樓美壽



錫栓附乳白硝子壺入

●壽美禮おしろい●

ねり製定(大壺 二十五錢)  
小壺 十二錢) 水製定(大壺 二十五錢)  
中壺 十五錢) 小壺 十二錢) 錢錢錢

すみれ白粉は 歐米諸國に専ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素新成績液體等を以て配劑しあるを以て肌を艶麗ならしめ香馥郁として長時間保續するの性あり『壽美禮白粉』は常に用て御顔肌へを清々しく天然の色白さに至るべし董『おしろい』は芳香馥郁と長く保つが故宴會、祝席、雑踏の場所に臨て衛生上有益無比の逸品なり『壽美禮白粉』は高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京横濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

●西洋 洗滌劑 壽美禮あらひ粉の特性

綠、藍、紅彩蝶番ひ 大袋 入二錢  
罐詰 六錢五厘 袋 入壹錢

●弊舖製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に専ら賞賛する香料及弊舖新製の原料を用ひて處せずものなれば朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあかを落し御肌を美しくす  
●常に髪洗ひに用ひ給へば髪のればりを取り油あか等を生ぜず又牛ふりハンカチーフ絹綿等に用ひて能く汚垢を落す總て物を漂白する性あり  
●使用法は普通あらひ粉の半分にて能く水又は温湯に溶し又はぬかに混ぜ入浴の際用ふるを良とす

登錄商標  
粉らあるなく白色洋  
**SUMIRE**  
Washing Powder  
粉ひらわ禮美壽



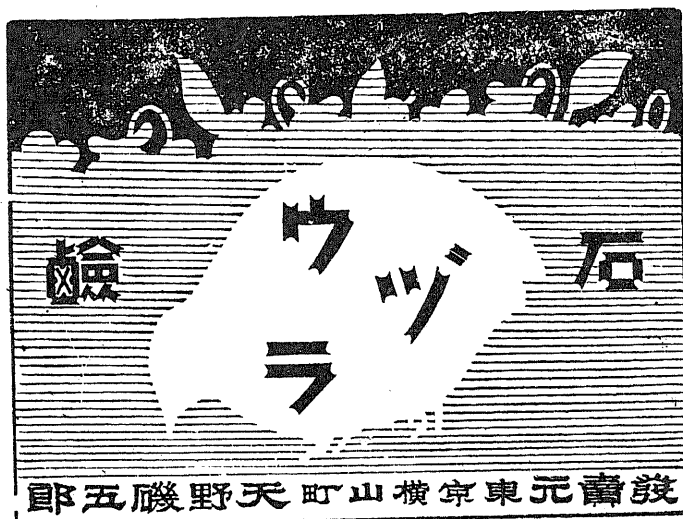
製造本舖

東京 東兩國 橋際  
元町兩國橋際

壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勸工場劇場運動場に有り

質品るな良純



香の香麝るな良佳

# 會長伯爵夫人丸操子

## 高等女學講義

毎月二月發行壹ケ半年卒業月謝十四錢束修十三錢

● 皆さん!!! 女でもこれからは學問がなくてはなりません

▼ 本會は近頃の講義録が餘り亂暴な行爲を致しませ

▼ 本會は全國の教育家の贊つたものです

▼ 本會は全國の教育家の贊助により眞面目なる教育

▼ 本會の講義は皆さんが自宅で獨習の出来るよー工夫をこらして丁寧講義

▼ 本會卒業生は貸費生其他の特待があります

▼ 本會に入れば家が居る

見本一冊五錢規則進呈 振替貯金口座壹壹壹番

### 擔任講師

修身	東京高等女學校教諭	市川源三
國語	東京高等師範教諭	吉田彌平
習字	東京高等師範教授	岩田鶴阜
算術	東京高等女學校教諭	生駒萬吉
歴史	東京高等師範教授	稻垣作太郎
同	東京府高等女學校教師	峰岸米藏
同	東京府高等女學校教師	依田豊
同	女子高等師範講師	森白畝
英語	正則英語學校教師	池田夏苗
地理	早稻田中學校教師	小田内通敏
同	本會主幹	牧口常三郎
理科	女子高等師範教諭	竹島茂郎
同	東京府高等女學校教諭	森川勉
家事	高等家政學教授主任	塚本はま子
裁縫	女子高等師範教諭	吉村千鶴子
同	同校訓導	市橋なみ子
茶湯插花	日本女子大學講師	兒島文藏
女子實業	東京弘文學院教師	金太仁作

● 本會に入れば家が居る、女學校に居ると同様の學力がつきます

東京市小石川區 大日本高等女學會

# 第三回新學期開始

●會員大募集九月三十日迄の申込み會金全免す、目下入會の好機

▲事情があつて高等女學校に入る事が出来ぬ人の爲めに「女學講義録」を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の教育を完全に正則に授けさせん。世間の講義録は乾燥無味で面白味がありません。本會講義録は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いやうにし、且つ有益なる數十頁の雜録の外に、美しい家庭小説を毎號附録とします

▲本會の講師は皆な斯導専門の大家で且つ教育に充分經驗のある方のみです、講義は只親切と云ふ事を主とし丁寧懇篤に説いてありますから本會を員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です  
▲本會講義録は右に述べし通り最も完全したものであります、會費は極めて少額で都會一ヶ月の遊學費で優に全期を終る事ができます

## 大日本淑女學會

高等女學校程度  
講義録發行

### 批評一斑

- ▲中央新聞評 講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也
- ▲毎日新聞評 米國の通信教授法を參酌せるもの文字平易説明懇篤を盡くせり
- ▲二六新聞評 高等女學校の全科程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり
- ▲日々新聞評 講義は總べて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり
- ▲都新聞評 講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を拓き得可し
- ▲報知新聞評 講義録多しと雖も實益と趣味と併て有する事斯くの如きは稀也

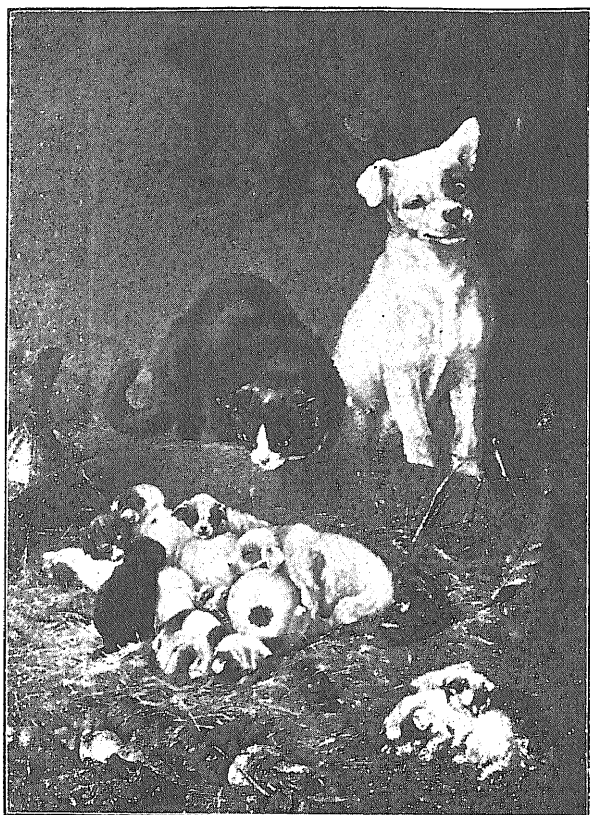
上掲の批評を御覽にならば本會講義録の眞價が分りにやませう

### 規則書

端書にて申込われば直に郵送す可し ●東京神田(電話本局)三三四番 大日本淑女學會



睦 し き 眷 族



(泰西名畫)



# 婦人と成功

## 第六卷第九號

### 婦人と成功

人生婦人となる勿れ一生の苦樂他人に依る、と云つたのは昔し之事。今は明治聖代の御代男女同權論も出て女子の判任官も出来る時節女子とて馬鹿にしたものでもなし。我こそ一件の成功と云ふものして見せんと。或は下田歌子或は奥村五百子など云へる女丈夫を夢みることに強ちに惡ろしとも云ひ難けれど。所詮は家庭の女王たる可き天職を貰へる身、其成功と云ふ可きものも畢竟家政と育児に遠ざかる間敷ものと云ふを得可けんか。云ふ勿れ「人生婦人となる勿れ」と又信する勿れ「一生の苦樂他人に依る」と世に多くの家庭は其主婦の爲めに浮ぶ瀬なき非運に陥りつゝあるもの頗る多し。之に因つて之を見れば一生の苦樂他人に依らざるのみならず、却つて幾多家族の苦樂を其手中に握れるものと云ふことを得べし。或は云ふ婦人の一生は男子の夫れに比して一層苦辛多しと。蓋しかつたのかさ羨みに過ぎざる可く然も戀性男子としての女子の獨立的生活が遂に憐れむ可き大なる悔いを齎らすことを知らざるは愚と云はんか狂と云はんか吾人之を知らず。

(湘南)

現今の風紀問題につきて

女高師 教授 東 基 吉

事實は新聞や世評ほど大きくあるのでもあるまいと稍々疑はれて居た青年風紀問題も、文部省の訓令やら、高等學校入學試験の結果公表やらで、或は新聞や世評よりも、反つて事實の大なるものがあるのでないかと疑はれる様になつたのは、實に慨嘆の至りである。

一度この問題については、前に本誌に少し許し記して置いたが、これが矯正法についてはつまりは學校と父兄との方で十分の注意を拂つて、學生を無監督の下宿屋又は素人屋に置くことを絶対に禁じたいと思ふのである。而して、これは殊に、地方より遊學する女學生に向つて一層深く望むのである。これを根本的の救済策として、其他にまだいろ／＼あると思ふが、かの新聞紙などで、しきりに青年男女の行爲を大袈裟に吹聴する如きは、あまりよくはあるまいと思ふ。例へば夜間の公園に於ける青年男女の行動の如き、麗々しく新聞に

書き立てる如きは、其本來の趣意は、或は此の如き輩を筆誅し以て他を誡むるにあるならんが、其結果は反つて反對に出で、記述せらるゝものは其姓名の知れざるがために、自ら耻づることを知らず、或は姓名の知るも、元來無耻の無賴漢なれば、名前の出る位は何とも思はず、而してこれを讀む所の他の思想不確實のものを刺戟煽動して反つて好奇の情よりかゝる犯罪に傾かしむる恐があるからである。

も一つは青年男女の娯樂の制限である。何れ人間には娯樂といふものがなくてはならぬと思ふ、従つて學生たるものにも當然娯樂とする所がなければなるまい、然しこの娯樂は人に由り身分に由つて種類が違はねばならぬ、既に業成り一家をなした人の娯樂と、未だ修學中の者の娯樂とは、自ら違はねばならぬ、労働者の娯樂と學者の夫とは同じく違ふ道理。青年の娯樂の種類として和歌を嗜むといふことの如きは、大に考へ物だと思ふ。或る文士の話だが、好んで和歌をやる女學生などには存外、面白からぬものが多いといふこと、實際

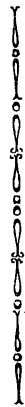
其筈、戀とか思とかを咏じて居れば、只だ咏する  
 丈けに止まらないで、遂には其境遇を實現したく  
 なるのである。音楽なぞも近來、學生間に大分修  
 業して居るものがある、音楽の普及は喜ばしいに  
 は違ないが、更に一方から考へると大に注意すべ  
 き點があらうと思ふ、一体美術文學などは、何方  
 かといふと、思想の未確立の者に取つては反つて  
 或種類の危険に導き易いと思ふから、青年學生の  
 娯樂には不適當だと思ふのである。これは寧ろ成  
 業した人に屬するものであつて學生の様な常に頭  
 を使用する側の者にあつては、身體を活動させる  
 方面で娯樂を擇ぶのが一番よいと思ふ。といつて、  
 男女混合の舞踏會の如きは、これは頗る考へもの  
 である。

次には繪葉書の流行は又學生の風紀に關するとい  
 ふ話があるが、これも如何はしい青年の動作を畫  
 にした類のは勿論不可ない、夫でなくても随分時  
 には、繪葉書其ものが媒介になるかも知れない、  
 或中學校では凡べて、美人繪葉書を持つことを禁  
 止した、或女學校では一切の繪葉書を使用するこ

とを禁じた、とか聞いた、然しこれは、風紀問題  
 よりも、寧ろ學資を父兄から仰いで居る學生の浪  
 費贅澤を減じるといふ方面が主だと思ふ。

次に注意すべきは、所謂家庭熱である、家庭の快  
 樂とか、家庭の趣味とか、家庭の幸福とかいふ類  
 の流行語が、青年學生の意氣に關係することが少  
 くないと思ふ。其爲に肝心現在の勉強苦學よりも、  
 寧ろ遠き將來の理想の家庭などを夢みつゝ、遂に  
 は思はしからぬ方向に思想を轉じさせて仕舞ふの  
 である。女學校の生徒に、早くから良妻賢母、々  
 々々々と口癖の様に吹き込むのも、かゝる點から  
 考へて注意すべきことであらふ。こういう風に教  
 育するも、未だ何も知らぬ時分からこましましやくれ  
 て、自分は疾つとく良妻か賢母になり濟まして、  
 従つては早くから理想の夫を定めたり探したりす  
 る様になる。賢母良妻主義の教育は結構には違な  
 いが、其主義の貫徹するには、何も早くから賢母  
 良妻の語を口癖の様に吹き込むにも當るまい。夫  
 では反つて其主義の貫徹が困難になつて、反對の  
 結果に陥るであらふ。

青年の風紀問題は比較的近來の語であるが、其前に顯はれた流行語は家庭に關したものであつた。世人が家庭の問題に注意するに至つたのは喜ぶべきことであるのであるが、夫と同時に不健全な家庭熱を青年者の思想に惹起したことも亦事實で、其不健全な家庭熱が、やがて今日の風紀問題に幾分かの關係を有つて居るといふことも亦事實であつて見れば數年前の「家庭思想」はやがて、今日の風紀問題の前驅の様に思はれるのである。



▲ラザニウム之力 新元素ラザニウムはエレクトロンと稱する一種の力を有するものにて此元素が此力を有する事は夥しき事にてダイナマイトの有する力よりも百万倍の力ありといふヨハネスブルグといふ處の學者マーウインの調査によれば重さ貳百七十萬貫のものを地上十四町ばかり引き上る力は七匁許のラザニウム中に含まれありといふ又六千渾(一渾は我凡そ十六町位)の航路を十五渾の速力にて一万二千噸の船を走らす程の力は百五十匁程のラザニウムに含まれる割合なりといふ。

## 選夫選妻の説

温香堂主人

四

「選夫選妻」とは、讀で字の通りです、平たく云は「智定め、嫁定め」のとて御座います、これは、往昔から實際人々が遣つて居るものでありますから、珍しいものではありませぬけれど、その選び方定め方は、時代の變遷と共に變化せねばなりません、如何なる主義に依らねばならぬかと云ふに就きましては、自ら茲に説が立てられるので御座います、温香堂主の説が、今の世の人の選夫選妻に當つて、幾分にも參考となりますならば、結構なとと存じます

先づ人がその夫を選び、妻を選ぶと云ふとは、大切のとてありまして、世間一般の人々が遣つて居るやうに、輕々敷くは出來無いとてあらうと思ふので御座います、彼の女中、小間使ひを雇ひ入れますにも、生れた里から、親元の身分から、本人の氣性だとか、起居振舞ひ杯、穿鑿すれば随分

面倒なものです、けれど、その面倒をせずに置いて御覧なさい、それこそ不可者を撰まされるのです、まして借老同穴の契り結び、「お前百せで妻や九十九まで、俱に白髪が生るまで」の永い月日を、異體同心に、二身一心に遣つて行かうと云ふ其の夫を選び妻を選ぶに於いては、十二分の注意を用るとは無論のとであらうと思ふので御座います。

近頃新聞紙上に『結婚したし』『妻を求む』『養子に行きたし』杯の廣告のあるのを見ますのですが、選夫選妻のと、結婚の媒介が、斯のやうな手軽い手段で出来やうとは、夢にも信ずるとは出来無いのです、しかし、事はまた偶然の機會に由りて案外都合に運ぶやうなとは世間に間々あるとですから、新聞紙上二三行の廣告の効能が現はれて、甘く出来た人もあるかは知れませぬけれど、此の如きは眞摯な手段だとは思はれませぬ、先づ稀有の例外と見做さねばなりません、常識のある者は、逆も纏まらぬ相談ではありませぬか。試みに、小間物屋に這入つて品物を買ひますに

も、彼れか此れかと打ち惑ふが人情の常ですもの見柄の好き相なものには丈夫で無い、頑固で爲に好き相なのは見つとも無いのが多い、これわと氣に入つたのになると價格が張ると云ふやうな鹽梅ですから、先づ自分の懐中と相談をせねばなりません、そして身分相應の物を買ふと云ふ流儀が、最も安全な方法であらうかと思ふので御座います。夫を選び、妻を選ぶの法も、亦矢張これと同じとではありませぬか、この「身分相應」といふところが、昔から云はれて居ることで、何等嶄新のを無きやうなれど、選夫選妻の要件は、只この相應と云ふが眼目であらうと思はれます、今の流行言葉で云へば『調和』です、貰う方と貰はれる方との調和を計るが肝腎なので御座います。選夫と云ひ選妻と云ふは、結婚前の尤も大切な準備なのです、善良の良人を迎へ又は善良の妻女を娶つて、幸福なる家庭を作らうと希望するのは、誰人とも同じとでありませう、選夫選妻の目的は、適當なる配偶者を選定して、之れと結婚し、平和幸福なる家庭、所謂スウキトホーム、ハッピー

「ホーム」を造る爲めでありますが、その家庭の平和幸福は何に依りて得らるるか云ひますれば、只『身分相應』即ち『調和』によつて得らるゝのであります。

『帯には短かし褌にや長し』とは、選夫選妻の當時、常に人の口にする所でありまして、配偶者双方の調和し難いを云ふので、この調和と云ふのが、随分面倒なものなのです、それと云ふのが、人間には、皆然と云ふものがありまして、自分を公平に見るとは六ヶ敷いから、調和を得難いのであります。『破れ鍋にトチ蓋』と云ふのが、能く調和を云ひ現はしたもので、誠に面白い言葉ではありませんか、されば、夫を選び妻を選ぶに當つては、第一にこの双方の調和如何と云ふ事に留意せねばなりません、さすれば後日の失敗を免れ、双方共に平和幸福なる家庭を作る基礎が出来やうと云ふものです、今これを條目的に述べて見ます。

第一、先方の氣質・自個の氣質との調和如何です、自個の捧ぐる愛情を、先方は之れを解して、

又之れに酬ゆるの同様の愛情を以て爲るや否やと云ふと、世俗に『犬猿帝ならず』とか『水性」と火性』とか云ひまして、どこがどうと云ふのは無いけれど、只なんとなく気が合はぬとか、性が合はぬとか云ふやうなのが、幾程もあると、甘いの好きと辛いもの好きとは、調和せぬかと云ふに、さうでは無い、これは天性と云ふのでは無く習性であるから、境遇の變ると共に又變るをもあるけれども、性れ附きの氣質と云ふものは、なか／＼變り易いものでは無いのです、それゆゑ、同情に富める者と冷酷なる者とは一致が六ヶ敷い、謙葉的女子と殿様の男子とは結合が仕難い、茶屋町蕨者屋で育つた娘では、先づ教育家宗家の妻には不向きと云はねばなりません。容貌より氣質前と云ふて、人によると、容貌よりも性質氣質に重きを置く程でありますから、氣質の調和を計るに、選夫選妻の一要件なのであります、水は相ひ交らず、氷炭は相ひ容れずですから、氣質の調和せぬ者は、先づ避けねばならぬをかと思

ふので御座います。

第二、先方の家庭と自個の家庭との調和如何です、何れの家庭に置きましても、皆それらの家庭法があり流儀がありまして、それが決して一様ではありませぬから、父兄長者の言語舉動に幼少の時から感化され、家法流儀が習性となつて、各人が各個に一の習性あるとは争ふ可からざる事實です。それには又世間には能くあるとですが、金持ちと貧乏人との結婚杯は、屹度どちらかに不平が起り易くて、立派な調和は保てないものです。から先方の家庭と自個の家庭との調和を穿鑿して後悔の無いやうにせねばなりません、幾何伶俐でも華族の姫様では、平民の家庭の良妻としては、チヨイト考へ物です、理想的結婚には、どうしても双方の家庭に餘り隔りの無い方が好いやうに思ふので御座います。

第三、双方の健康如何です、配偶者の選擇に於きまして最も大切なる條件は、其人が健康體であるか否かでありまして、たとひ他の條件は完全でありましても、其の身體が不健康であつたなら、逆

も平和幸福なる家庭を作るとは出来ないのであります、されば先方の血統を正し、自個一代のみならず、子孫永久の幸福を圖らうとするには、手数の煩はしいと杯を云ふ可きとは無からうかと思ひます、成る可く身分相應の努力にも堪へ、甲斐々々敷く家政を鹽梅してなほ餘裕ある程の妻を撰び、又世に出て事業職務を爲すにも、忽ちに閉口垂れるやうな夫を持つては、苦勞をせねばならぬから、仕合せな生活の基礎は、夫婦の達者なのが一番大事なとゆゑ、この個條を輕んずる譯には行きましますまい。

第四、容色の如何です、容色は健康と同様に大切な條件であります、場合によりましては健康以上に大切な者かも知れませぬ。健康は随分後天的作用で恢復變化せしむるものが出来無いでもありませぬけれど、先天的天賦の容色は、人工作用を以て美化し艶化せしむるとは出来無いのです。容色の美、風采の高さを見て、欽羨の情に堪へぬのは人間自然の至情であります、何人でも醜を嫌つて美を愛します、されば色を白くし、肌理を濃



にし艶を出すの薬齋は賣薬業者を忙殺せしめ、隆鼻器なる者が發明されまして三平二滿も天狗と化けられるやうな便利とはなり、新聞の廣告欄内一日として婦人化粧の薬品を見ざると無しと云ふやうな勢ひですけれど、悲しいことには、天與の容色は藥劑器具では甘く誤魔化すとは出来無いので、天真の麗、自然の美は、人工的に形作るには出来ませぬけれども、進化の原則は一日にして蚯蚓を大蛇に變へしむる者では無く、猫を虎に化せしむる者でもありませぬ、一時一刻の間、漸々の進化を成す者ですから、容色の美なる妻を娶らうとして人々均しく美人を娶らうとしてもそれは到底行はれるとではありませぬ、殊に自己の容色を顧みずして、只先方の容色のみの選り出しに苦心すると云ふは、餘んまり勝手の沙汰ではありませんか、大抵似たり寄つたりの、ふさわしい程合ひを保つのが調和ではありませんか、然るに世間大概の男子は自個の容顔と相談するを忘れて臆面も無く得手勝手なことを云ふて居りますのです、彼の「お前兵ト子、妾はか龜」と云ふが、語は凡

俗ですけれど、誠に調和の一致を云ひ現はした警句だと思ふので御座います。

第五、双方の社會的地位の調和如何です、世に「釣鐘と提灯」なる語があります、これは不調和不釣合ひを云ひ現はしたもので、自個は提灯のやうに軽く小さな身分であるに、先方は世に時めく地位の人の女であれば、亭主は妻女に頭が上からず、所謂「嗚大明神」「嗚關白」と云ふやうなことに成つて、亭主は嗚のお尻に敷れると云ふ不調和を來たすのです、「男尊女卑」と云ひ、「女尊男卑」と云ふが如き不調和不自然の結果は、主として双方の社會的地位の不平均、個人同士の人格資力等の權衡の調和せざるに座するをかと思はれますのです、夫れのみならず、双方の職業の種類に附きましては、一層の思考を要するのであります、職人の娘は直ちに美術家の妻たるには適しませぬ、田舎のお嬢さんは直ちに外交家の妻たるには適しませぬ、お茶屋の姐さんは宣教師の妻としては勿論不向きです、風儀が相ひ合はず、身柄が相ひ添はねば、配偶者双方の利益とは成らないのですから、

双方の社會的地位の調和を見計らはなければなりません。

第六、趣味と教育の如何です、現今社會一般の結婚談、選夫選妻の最大條件として、教育の有無多少を云々するは、一の流風と成つて居るかのやうに思はれます、或は宅の何子は某校の出身ですとか、何々さんは某校の出身で何が能くか出来になるとか云ふて、教育をもつて筆筒長持同様一種の嫁入道具と心得て居る者が、滔々皆然りと云つて好いかも知れませぬ、女子教育の普及は双手を擧げて欣ぶ所ですけれど、學問知識の高下は結婚に對して左まで必要なる條件だとは思はれませぬ、學問知識の有るは誠に結構ですけれど、その學問知識を良人の前、他人様の前で、鼻に掛け得ぬ程度が宜しいかと思はれます、女子の方を多く云ふやうで濟みませぬが、社會の一員として、一家の主婦と成り子兒の親としては、高等女學校出身者なれば、目下我邦の社會に差支へはありますまいこれ位ひならば、別に自慢する程の學問があらうとも思ひませぬけれど、實際に不自由と云ふとも

ありますまい、けれどもそれも自個の身分地位と比較してのことで、或は高等小學校の卒業生でも十分な家庭もありませうから、一概には云ふとは出来ませぬが、要するに教育、智識は彼の氣質、健康、容色等の如く、天稟と成つて人爲的作用を施し得ざるものとは違ひ、結婚後に於ても啓發感化の出来るのですから、選夫選妻の條件中で、一般人が思惟して居る程に重きを置く個條では無いのです、されど『趣味』なる者は教育及び感化に由りて容易に誘導し能ふものではありませぬ、趣味も亦多くは天性に伴ふたる者で、各人個々に相異なるは猶ほその面の同じからざるに似て居ります、ですから選夫選妻に臨みましても、教育よりは趣味の嗜好如何を實し、自個の趣味と一致する者を選ぶが双方の利益であるとは云ふまでも無いとです、自分は文學、美術、音樂杯高尚なる趣味を有せるに、先方の趣味野卑下劣にして共に語るに足らずと云ふやうでは、趣味の調和は求められませぬ、芝居を観るにも、花觀みに行くにも、同等若しくは稍近き趣味嗜好がありますれば、双方

の愉快は甚だ深いものがあらうかと思はれますのです。

要するに、選夫選妻説の主要の眼目は、天稟天與の美質を重き條件といたしまして、後天的に教育し感化し得らる可き者を輕き條件とするのが適當なる方法かと思ひます、我が邦の過去及び現在の如く、危険なる『富籤的結婚法』は、速に之れを廢止して、人間天與の和樂幸福を全ふし、義務責任を全ふしたいものだと思ふので御坐います

(KY生記)

電氣燈の爲めよろしき由此程露國の醫師の發見せしといふ眼は瞬きする度數多き程疲るゝ事多きものなりと 今令醫師の試験によるに眼の瞬きする度數は一分間毎に蠟燭の光にて六度と三分、瓦斯の光にて二度八分、太陽の光中にて二度と二分なるに、電氣燈の光中にて一度八分なりといふ

▲各國民の飲料は其國々によりて異なるが、英國は茶を用ふる事多く北米合衆國にてはコーヒーを飲む事夥しく獨逸はビールを用ゆる事他に比類なく露國は酒精類を最も多く用ひ佛國にては葡萄酒を用ゆる事世界一なりといふ

贈送につきて

わけばの

自分の家から出た一尾の鯛が、七八軒の家を廻り廻はつて、又自分の家へ舞ひ戻つたといふ様な話は、よく聞くことであります、歳暮の贈品、暑中の見舞品には、今日でもこれが極めて普通在り勝ちのことで、従つて贈る方でも貰ふ方でもよく注意しなければなりません。

「誰さんのお家へは大分御無沙汰をして居るから、今日は暑中見舞を兼ねて、一度伺ひませう、然し、どうも手ぶらでも困るし、何か持つて行くものはないか知ら……」と困つて考へて居ると、丁度都合能く他所から、カステラの菓子折が到來した。これはよいものが来た包紙もこの儘間に合ふし、「といふので、中味は吟味しないで、其儘このカステラ折を持参するといふ具合の贈答が随分多いのですが、他の器物類、罐詰類の様なものならば宜しいとしても、魚類や菓子類のこの種の贈答は、時節柄餘程危険だといはねばなりません

ぬ、一尾の鯛の例の通り、其カステラが實際、自分の宅へ来るまでに、既何軒廻り廻つたことか、菓子屋の店を出たのは幾日前のことか知れたものでない。

去る年の夏、私は某地方に避暑して居た頃、同じく東京からそこに來て居た、ある知名の人から「東京から送つてよこしたのだ」といつて、大きな一片のカステラを貰つたので、すぐ切つて食べようとして、よく見ると、何んぞ計らん、其中には、澤山な小さな虫が、うちくと動いて居たのでした。

ある家へ他所から、甘納豆を送つて來た、開けて見ると、全く腐敗し切つて居ました。

昨年の夏、大きな菓子折が、自分の家へ飛び込んて來ました、そして蓋を明ける前に見たら、一ヶ月程以前の製造日附がついて居たので其儘すてさせたこともある。

斯様の品を、若し貰つた方で其儘用ふるることになつたならば、衛生上随分危険な目に遭ひ、その爲に、贈つた方の折角の厚志と、全く反對の結果に陥るのであります。

古來の習慣もあることですから、形式上の贈答も全く廢するといふのは或は困難かも知れませぬ。

併し如何に形式だからといつて、他所からの到來品を、一應の吟味もしないで、すぐ其儘、又他所へ送つて、その爲めに、贈られた方も迷惑し、送つた方も拆角送つて置きながら、お腹を見すかされるといふ様な、お互の愚はしたくないと思ふのであります。

さればといつて、到來品を贈るのは、強ち悪いといふのではありませぬ、併し夫は珍らしい到來品を知人へ別けて、その賞玩を共にするといふ意味にしたかと思ふ。故に到來した品ならば、先づ自分で改めて見て、そして更に夫を到來品だと公然名告つて持つて行けばよい、すれば包紙などは、その爲めに取り代へたつて構はない、態々自分が買ひと、のへた様な體裁を装ふにも及ぶまい。

然し體裁を飾ることも出來ない、さればといつて態々金を出して買つて持參する程の義理でもなしといふ様な場合ならば、斷然暑中の形式的贈答は廢したいと思ふ。

# 實驗上の育兒

醫學博士 瀬川昌耆

▲素人は誤つて牛乳を代用す 前回は續いて牛乳の事をも少しお咄し致しませう、素人の方や醫師の間に斯んな誤解の説を傳へられてあります、哺乳兒が乳汁を吐くとか、或は下痢するやうな場合には素人考へで『之れは大方母乳(或は乳母の乳汁)の性質が悪いのだらう、早やく牛乳に改ためなければ』と牛乳に取り換へたりするし、又た醫師でも、吐乳するとか、下痢する哺乳兒を診察して『母乳を飲ませることは見合はせて御覽なさい』と云ふ母親は醫師の斯ういふ勸告を聞くと『夫れでは母乳の代はりは何を與へたら可いでせうか』醫師『無論牛乳で育てなければなりません』と早計にも母乳を廢して牛乳を代用させて仕舞ひます、保育上の缺點は斯ういふところにあるので母親は此説を聞いて輕々しく信じてはなりません、先づ哺乳兒が斯る状態に陥つたなら其の原因を充分に明め直ぐに乳汁を換へる扱は宜しくないこと

であります 毎日の習慣に缺點あり 兎角斯る場合には授乳の分量が多過ぎるか、左もなくば飲ませ方が悪いのです、乳汁の飲ませ方や、乳汁の分量などは前々にもお咄し致した通り餘り手近な事で、母親の毎日取扱つて慣れ過ぎて居る程だからツイ知らず識らず保育上の攝生を缺くに至るのです、爾うして夫れが母親の手に慣れて仕舞うから何うしても其の缺點を發見し惡いので原因を他に求めるやうになり、實際は母乳(或は乳母の乳汁)の性質が悪くもないに、母乳が悪いのだらうと飛んだ方角へ考へ違ひをして牛乳を代用するに至るが、斯んな早まつた事は深く誠しむべきであります ▲牛乳に耐えぬ兒 哺乳兒によつては人乳の代りに牛乳を飲ませても何うしても吐いて消化されない性質の哺乳兒があります、ソコで種々な方法を工夫し、牛乳を飲み習はせやうと百方苦心したのが飲ませれば、直ぐ吐乳して仕舞うのです、未だ胃腸の虚弱な小兒などは、何うしても牛乳を消化し得ないで、飲ませるに吐乳とか下痢とかして何

んなに工夫しても胃腸症が癒えぬが斯ういふ場合に人乳を用ゐて始めて胃腸が整ふといふ例は澤山ある、之れ等は孰れも絶対に牛乳が其の哺乳兒に適さぬのであります、孰れの點から考へても牛乳は到底人乳の上に出づることの出来ない事は是迄説明したことで充分分りになつたこと、信じます、併し尙茲に申上げて置たいことがあります、極く稀には最良の人乳即ち乳母の乳汁でもつて自分の保育する小兒は、極く能く満足に育ち乍ら、其の乳汁を飲むと忽ち吐いて何うしても胃へ收まらぬ小兒があるといふ報告などのあることがあります、夫れと同じやうな理窟で貰ひ乳をすることこそ其の乳汁をば吐いて受けない小兒があると云ふ事を耳にするけれど、斯んな例はまづ無いものとして差支へない。

▲授乳の原則 次に哺乳兒に人乳を飲ませる方法を述べませう、之れ迄何人の實驗でも乳汁を多く飲ませ過ぎることは一ツの缺點であります故に授乳の原則として「成可く時間を置いて飲ませよ」と云ふことがある、此位にしても、泣けば直ぐ飲

ませ、抱けば乳房を含ませると云ふ弊害に陥り易いのであります。

▲二時間で消化す 總て小兒は善惡に係らず何事にも癖の付き易いもので、母親の取扱ひで何にでも養育さるゝのは實驗上既に御承知でもありませう、故に授乳してから授乳する迄の時間の如きも小兒をして規則正しき、良き癖を付けければ其れが習慣となるものであります、哺乳兒は最初の間は二時間目に一回授乳するのが適當です、何故ならば乳汁は二時間経過なければ全く消化しないものです、尤も哺乳兒時代に於ける最初の内は胃袋も小さし一度に澤山飲むことは出来ぬが夫れにして二時間の隔てを置かずに授乳しては決して愛兒のため宜しくないのです。

▲胃腸病を起す 處が今日迄授乳の方法を見るに孰れも時間が不規則で嚴重に此注意を守るものは尠ないのです、御覽なされ日本の哺乳兒に胃腸病の多いこと、何うして此病氣が多いのかと云ふに乳汁の飲ませ方が不注意で、無暗に時を嫌はず飲ませて、飲み過ぎさせるからであります、ソコ

で小兒が斯んな病氣に陥つたとて、罪を乳質の悪しきに歸する事は前にも云ふ通り早計極まるので、要するに乳質の悪いのは母親が脚氣症に罹つたとき位のもので、此の病症ある母乳は斷じて與へてはならぬのです、尙小兒が健康なる體質で、乳汁を飲み過ぎさへせずば胃腸病を起すやうな變ひはないとお心得を願ひたい。

▲睡眠中は授乳すべきか 哺乳兒が生後五六十日間を経過したら其後は三時間目に一回授乳するやうなさい、飲ませて居る時間ですか、夫は充分飲み畢る迄飲ませるが可いのです、身体虚弱の小兒なら十二三分から廿分間位は飲續けるし強壯なる小兒なら五六分間で飲止で仕舞ふのもあります、強壯なる小兒なら飲方が荒いので之は前にも説明した通りで詰り飲み止んだらすぐ乳房を離すのです、生後五六十日を経過して追々成長するに至れば夜分は成可く授乳せぬやうに習慣を付けなければなりません、之れ迄夜中でも食ませたものを、飲ませなければ可愛想だ」と姑息の愛に溺れて熱睡して居る小兒を喚起して授乳する如きは尤も弊

害の甚だしきものです、熟睡すれば其儘にして置くが可い、無理に飲ませるのは却つて害となりま

▲食物を與へる時期 三時間目に一回飲ませると八度授乳する割合になるが、夜間よく熟睡するやうになると自然に六度位に減することの出来るやうになります、生後八ヶ月(即ち生齒の時期)になつたら乳汁の外に食物を與へて差支へないのみならず普通に發達した小兒なら此の時期になると必ず乳汁の外に何か食物を欲しがるとなり

▲牛乳を與へる時期 牛乳は母乳にまぜて何時飲ませてもさしつかへがないから哺乳兒が生齒時期(生後七八ヶ月の頃)になつて既に食物を與ふべき頃になつたらまづ母乳を飲ませる間に牛乳をまぜて飲ませるがよいのです、總て斯ういふ場合には母乳の回数を減じて牛乳を其代りに飲ませるのですが、之れは哺乳兒が追々母乳を離れて食物へ移る時代に入るはじめてであるからです、尤も生後七八ヶ月位の小兒では、牛乳を其儘では少し濃過

ぎます故、一合の牛乳へは湯を五勺位加へ、少量の砂糖を入れて飲ませるやうするのです。(牛乳の飲ませ方は後に詳しく述べん)

▲始めて與ふる食物 去れども母親の乳汁が澤山あれば何も牛乳を交せて飲ませるには及ばない、直ぐに食物へ移つて宜しいのですが母乳を止めた後も當分は普通の食物許りでは保育に六ヶ敷いから矢張り毎日二三合位は牛乳を飲ませる方がよろしいのです、此の時代の哺乳兒に與へた食物は羹汁、之れは濃くないもの、夫れから粥ですが、粥と云ても普通の粥では困りますおも同様な一寸箸を入れて見ても箸にかゝらぬやうな薄い粥です、其の粥の中へは生玉子の黄身を適宜に混和し、鹽か或は醬油をもつて味を付け、小兒の好むやうに、喰べ可いやうにして與へるのです、爾うして最初は夫れを益に軽く一杯位盛り午前中に一回、午後一回、都合一日に二回與へて御覽なさい、無論斯うすると母乳を減する事は、唯今牛乳を飲ませるお咄しの處で述べた通りに減さなければなりません、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

りませぬ、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分

丈夫は母乳を減じる事と心得ねばなりません先づ斯うして暫く小兒の身体に異状なきや否や調子を見なければなりません、吐瀉する變ひもなく、能く消化した大便なら至極結果の善良なるものでありませぬ。

▲徐々食物に移るべし 以上の如き方法で小兒の營養が良好なれば漸次に母乳を減じて、他の食物即ち、牛乳とか、玉子のお粥とか、羹汁とか爾ういふものを徐々に増して行く、回数も殖せば分量も殖すし、薄い粥は濃くすると云ふ様な鹽梅にするのですが、其の調子が六ヶ敷い故、母親並に保育の任に當るものは周到綿密なる注意をして急に代へるやうなことをすると小兒の身体に害を追はします『何時とはなしに母乳から食物へ移りました』と云ふやうに知らず識らずの間に食物を與へ、夫れを食べなれて身体に異状もなく、充分消化し又發育も申分なきに至るやうな方法を取らなければならぬ、此邊の注意は寸毫も忽にすべからざることですから吳々も緻密に工夫して取扱はねばなりません。

十五



▲溶けるやうな菓子 小兒が滿一年近くになると

授乳の間にビスケットとかポールの如き澱粉や砂糖で製した菓子を與へて差支へない、此時期になると母親が與へないでも小兒の方から自然爾ういふものを欲しがつて來るものです、尤も斯ういふ菓子類でもゴチ／＼した堅いものや、口へ入れても力を入れて咀嚼がねば消化せぬやうなものでは與へて却つて害になるのです、先づ口へ入れたなら直ぐに解けて仕舞うやうな性質のものを選ばなければなりません、之れを思はないで、ビスケットなら何んでも宜からうと云かやうな無責任なことをされては困ります、夫れから飴などを與へたら何うだらうかと云ふ御質問をなさる方もありませけれど之は與へて宜しいのです、牛乳の中へも溶き交せて與へれば尙結構です、近來下山、丹波の兩藥學博士がヂゲストローゼの飴を拵らへて賣出してあるが斯ういふ飴なら尙可いと思ひます夫れに極く軟かな水飴ですから熱度の低い牛乳でも善く溶けます。

子を育てる親方への注意

左の數項は米國紐育市の一雜誌が懸賞にて募集せるものなりと云ふ、參考にもと譯し出せり

▲神經質になる原因

赤子は生れて二ヶ月目に事物を識別する徴候を表し、初めて微笑したり、或は音響の來る方向に頭を向けたりなどします。此時が家族の大に注意すべき時で堪へず話をしかけたりガラ／＼やサイツチや其他いろ／＼の手遊物を振たり、其前を彼方此方と通過したりして可愛がります。此事を適當に宜しきを得る様に心掛けぬと小兒を神經質にするのであります。赤子の神經系は極めて弱きもの故、物事を強てはなりません、貧乏人の小兒の方が富貴の人の小兒より却て神經質でないこと云ふことは吾人の熟知する處ですが此は重に母親や家族のものに絶えず侍て居る事が出來ぬからです。赤子は生れながら神經質ではないので譬へ其傾向があるにせよ生て年月の多く過ぬ内に規則正しく養育し、十分に睡眠させ自然の發達に任せて更に強ゆ

るに非れば匡正する事が出来ず。赤子の脳は生れて第一年に於て非常な發達をするものですから平靜なる事を要するので不相當な活動を強てはならぬのであります。赤子其内にも第一子は非常の寵愛を受け、是は年長者よりの好意であるが此が爲却て疲勞するので若し話する事が出来るならば寧ろ獨で自己の手足を手遊物にするのみで全く足る事を告げるでせう。

▲赤子の叫泣

赤子の叫泣を考究して見ると其泣のは實際の苦痛とか又は不愉快の感情より起りたるもので無い事が往々あります。意義を明瞭に表さぬ泣聲に因りて徒に不喜な事と推測するの不合理なものは勿論のことで叫喊は多くの場合に於て單に赤子が呼吸の際に起りて肺臓の強健な事を表示するのであります。斯る作用によりて生活の須要なる機能發達し且完全になり行く様造化により巧に組成せられて居るのです。赤子の初期では此作用が彼等の運動法なので是によりて血液の循環が均齊し消化力や身体の健康が進み其他種々の機能が活動するので

あります。赤子の泣叫は悉く他の助力を得ん爲めと思考して其推察した不足を満足させる様飲食物を與へるのは極めて當を得ぬとであります。斯の如き輕卒な取扱からして間食の習慣を養成し遂には消化力を害する様になるのです。故に赤子を泣せまいとして間斷なく愛護し心を勞し過る親は實際に於て却て赤子に害を與へ居るゝになるのであります。

▲食物の好嫌

小兒は時々食物によりて好嫌を爲ますが是は注意すべきとであります。好嫌のあるのは其體質に異なる處が在るからなので嫌な物を無理に進めるのは實に殘酷な事です。若し嫌な物を強て食すると胃腸に不平均を來す故小兒を善く育てるには彼等の好きな物を與へて嫌な物を強てはなりません。

▲小兒の前にて家計を談ずる勿れ

小兒の前で家計の困難なを談ずると小兒の心中に其事を苦惱する習慣を養生するとは誰しも知り居るでせう。自分にも其經驗があります。両親は自分が未だ此の如き問題を解さぬと思ふて家計の

事を談じて居るのを漏れて、落ち來んとする不幸を想像し又父が死去の後には如何に哀れな孤兒にならんかなと思ふて煩悶して居りました。

▲貸借問題

現今兒童が他人の物品を使用するに付て極めて無頓着なるのを親は之を輕視する如く見ゆ、自分は幼年時代には絶對的必要に非れば他人の物品を借てはならぬ又借用した物品は速に而して少しも害さずに返却せねばならぬと教訓されたものである、然るに今日では其と全く異なるので。自分の子供が學校へ入學すると間も無く下の如き事を注目した、其遊朋に書籍を貸したか、何れも數度催促するまで返却しない彼等は教科書を借りて其必要な時に用をなさぬ事をし又手巾やラケット等を借りて返す時に汚したり害ねたりする。上記の事は些細な事と云ふかも知れぬが、此等を許容し置くとは其時代の傾向を表示するのである。此習慣が募ると一知己より一品を借り他より又一品を借りて其日暮を爲すもの夥多になりゆくのである、思ふに小兒をして其初めの薰陶を誤らざる様

にし以て此の如き行為に陥らざる様留意するは實に母親たるもの、義務である。

▲女子と厨

皿を洗ふをを好まぬ女兒でも自身調理に従事せれば興味を以て臺所の事を取行ふ様になります。自分の娘は麵麩とビスケットを焼く事が出来ましたが次第に簡易な調理をなす事が出来る様になりました。是に従事させて時に稱賛して勵ましたが以後皿を洗ふに世話は掛りませんでした。

△紐育では四十秒毎に外國人が來、五十二秒毎に汽車が着き、六分毎に子供が生れ、七分毎に葬儀があり、十三分毎に婚禮があり、五十一分毎に家屋が建てられ、一時間四十八分毎に船が出帆し、七時毎に破産するものがある割合だといふ。

遠く慮りて近く行へ

湘 南 生

燒野の雉子夜の鶴で誰れか子を思はぬものがあらうか子を以て知れ親の恩とは能く云つたもので、全く親の子を思つて呉れる其至情は外に比べるものがない位である、併し其思つて呉れる親が健全な常識を持つて居るものなら至極結構であるが、之に反して少し没常識で見當違ひの考などを持つて居て、然も少し頑固な人などであつたら最期、其子はみじめなもので、逆も健全な思想や常識のある行動を有する人間とはなれる譯のものではない、尤も斯んな烈しいのは例外であるが是程でなくとも唯々子供可愛の一點張りて子女教養上に於ける現在及將來の目的を明に意識しないのや又中には自身立派な考を有する積りで居て實は少し間違つた考を持つて居るのが尠くないものである。

中には無暗矢鱈に子女を飾り立て、立派であるとか、よい子であるとか、上品であるとか云はれる

のを此上なきことにして居るが然もなくば少くも自ら斯る有様を眼前に見て獨り我虚榮心を満足させて御座るのもあるし、中には我子程利好なものはないと云ふ自慢心や世間の子供にまけさせまいと云ふ欲望から無暗に子供に種々な事を教へ込んで悦んで居るものもあるし、又中には無暗に子供を壓迫して靜に大人なしくさせる事ばかり考へて居る人もある。

是等は何れも其思想の根本に於て誤れるが然もなれば將來の目的を現在に實行したりする弊害である。

又斯ふ云ふ風に考へることか出来る。今日の人は理想は如何と云ふことには随分能く頭を遣つて研究して居る例へば理想の家庭とは如何とか人生の理想とは如何とか云ふ方面には随分能く研究して居るがさて其理想は現在に於ては如何に實行されるべきか前後の事情に適應しては何れ程迄實行されるべきか將來之を完全に實現せんには如何なる準備を要するか等の實際問答に就きては兎角研究の足らざる感がある。子女教養上にも矢張此弊があつ

と遠き將來の目的を唯其儘に之を現在に實現せんとする様である。

先頃も其教授は案を叩いて慨嘆して云ふには「今の世は理想とか完全とか云ふ方面には誰も熱心に研究もし慾望もするが切て其實行となるといやもを話にならぬ。兎角今時の人の目は遠大に走せて卑近に疎いと云はねばならぬ。此分で押して行つたら希臘の天文學者ではないが溝や古井戸に落ちないのが目付ものだらうよ」と云はれたが味ふ可きことである。京都の谷本博士も近來諸所の教育會などで頻りに演説して世人が徒に擴充に急しくして適應に拙なるを慨嘆して居られる。兒童教養上に於ける一般の趨勢も亦然考へることが出来る。徒に先の事ばかり考へて之を現在に如何に適應せしむ可きかと云ふことには餘り重きを置かぬのは恰もハイガラが日本の家屋へ椅子や食卓で生活しやうとする様なもので到底思はしい結果が得られるものではない。

### 幼兒に課する遊嬉の種類

芙蓉生

二十

幼兒には何んな遊戯をさせたらよいものか、と云ふ質問は幼稚園の先生や熱心な親御からは常に絶間なく出るのであるが、之が根本的解決については嘗てフレイベルが云つたことがある。

「幼兒の遊嬉は如何なるものがよいかと云ふて直に返答が出来ない何故かと云ふと一体遊嬉と云ふものは幼兒活動の中に見出す可きもので作り出すことの出来ないものであるからだ。余は凡ての遊嬉を幼兒に學んだ。而して尙今日も學んで居る。余は自ら學び得たるものを再び彼等に與ふるに過ぎない」と斯く云つて居るが如何にも卓言である、數十年の昔既にフレイベル其人の口から斯様な名言が出て居るのに其我國に始めて幼稚園の設立せられて以來今日に至る迄も「不自然な人工を幼兒に加へて其自然活動を妨ぐ」と云ふ批難が動もすれば幼稚園の上に冠せられたのは如何にも不思議千萬なことであると思ふ。併し是より尙一層不思議

議なことがあるのはフレールベルよりはすつと遠く三千年の昔に逆つた希臘の時代に於て既にプラトールと云へる人の口から殆んど是と同様な事が云はれて居ることである。プラトールの云ふには「三才から六才迄の時期に於ては兒童の意味に於ける遊嬉を赦さなければならぬ。云ひ換ゆれば此時分の遊嬉と云ふものは其年頃の子供の自然に傾く所のもので彼等同年輩位のもので一所に集合した時には自ら見出される様なものでなければならぬ」と云つて居る。尙夫れのみでなく「吾人は遊嬉でもつて兒童の傾向を其業務に有益な方向に導くことが出来る」とか又「一定の遊嬉を變更することなく繼續させたらば夫れは以て品性陶冶の手段とすることが出来る」などと云つて居るが如何にも今日に於ける幼児教育の根本主義を闡明して居るではないか。何れにしても幼児を誘導すべき遊嬉の種類は一定の種類を限り一定の方法を限ることの出来ないもので時と處とによりて色々と變化す可きものであることが知れるではないか。既に時と處とに應じ

て變化す可きものであるとしたらば今假りに一つの新遊嬉を發見して之を幼兒に行らして見たからとて此新遊嬉が何時迄同じ形を維持するであらうか、即ち舞踏や体操と違つて漸次に色々な方面に向つて變化と改正とが加はる可きものだらうと思ふ、然るに世の幼稚園などには數年前に工夫された遊嬉が今も尙其儘に残つて居るのがある様だが是は大きに考へものだ。勿論古いからと一概に悪いのではないから残す可きを残すに何の差違がないのみか其は大に必要な事には違ひないが、唯無頓着に不注意で過して居る中に何時か數年を経ると云ふことのない様に注意しなければならぬと思ふ。

- ▲人の年齢は大抵定りあるものにて或る統計學者の調査によるに男女共二十五才に達せるもの二人に付一人は必ず六十五才迄生存する筈なりといふ
- ▲人間の手先には八分四方につき大凡二千五百の毛穴あり、手先全體の毛穴を繋ぎ合す時は其長さ約二里に達すべしといふ

新夫婦の理科問答(下)

本郷生

西日が差して極めて明るい。そして小さいけれど一寸便利に出来て居る臺所で、先き程より何事か一心にやり居る年若き婦人がある。今しも眞白なハシケチを出して鼻の邊の汗を拭ひ、手早く袂に押し込む様子仲々に忙しさをうかがはれる。見れば赤土色のコンロの上には、小さな唐金銅が懸りて、コト／＼ピチ／＼と音して何やらが煮へて居る。其傍には黄金色に旨さうな御馳走がかなり澤山に出来て居る、之れは問ふ迄もなく正木の婦人綾子が前日の約束に従つて、モーカレは歸り來るかと思はるゝ、夫直吉の大好物をこしらへて居るのである。事茲に至つて見れば綾子の心は、勝ち誇つた凱旋兵士の心で、若し心配がありとすれば、そは何と賞めらるゝか位のことであるが、實際のことを打ち明せば今少し前迄は綾子の心配はなかく容易なものではなかつた。人の拵へたのを食べたことはある、否見たともある、併し實際に手を下したことは正

直のところ今が初めてである。これ／＼と材料を考へ出して之を毎朝「御早う御座い」とやつて來る年寄りの御用商人……少し話は大きい……に命ずる迄も、外から思ふ程容易なものではなかつたが、まゝ其邊はよしとして、大不審は綾子が油を鍋に入れて間もなく起り來つたのである。それを云へば利口ぶる婦人は「そんなこと」と笑ふかも知れぬが、どゝも實際の事實であつたから仕方がない、綾子が嘗て人のするところを見たところによれば、フライでも揚物でも、鍋の内には盛んに油が沸騰して居つた、然るに綾子が用ひたる油は、熱し行くに従つて始めは小さい泡が出て居たが暫くにしてそれも皆消え失せたかと思はると、其表面から徐々煙を出すに至つた、尙暫く見て居ると、追々其煙が激しくなり來つたが、油は静り返りて薄氣味悪いやうである、「どうしたのでしよう」綾子は獨り言して兎も角も鍋を卸した、そゝして事の原因を考ふべく始めた、綾子は一たびは油を疑ひ、又一たびは鍋を疑つた、併し何れにも手落ちのあるべきことを認め得ない。そこで甘藷の小

き一片を投入して見た。こゝが竹早町の一俊才たる所以かも知れぬ、それともいつとなしに夫の感化を受けたのであろうか、徒らに頸をひねり、手を拱いて思案や當惑に耽ることをせないで、ちよつとした實驗に訴へたとは思ひ付きがよい、すると油は忽ちに沸騰を始め、今入れた小さき甘藷の周圍は泡を以て包まれた、綾子が背て見たとある現象と少しも異ならない。「これでよし」、綾子は口には出さなかつたが窃にそう思ふた。そして早速鍋をこんろの上に歸し、而して準備整へる凡ての品々をばつくと入れ始めた。ジュウピチノ事は豫定の如くに進行する、綾子は今や順風に帆を上げた勢であるハンケチで鼻を拭ひ何と賞めらるゝかと云ふ様な餘計な心配も今は起り得る餘裕ある場合となつたのである。

たかが二人の御馳走である、始めたかと思ふと間もなく終結に達し、諸他の夕食の準備は凡て滞りなく調ふた、時計を見れば五時を過ること二十分今日は御歸りが遅いと云ひ相さ顔で綾子は火鉢の火をつくろうて居る。

チリン〜と木戸を引き明くる勢は寧ろ亂暴でも評すべきか、正木は今歸つて來たのである。今日は大層遅う御座いましたね何か御用でも」聞き終へぬうちに正木は「いや一寸六ヶ敷準備があつてさ」一寸時計を見て「はもー六時！すぐ御飯を願ひ。御腹が空いた」稍ありて二人は食卓に就た。例に依て正木は能く食ひ、能く饒舌る。綾子も頗る得意の体である。

彼等が今夕の話題を問ふは寧ろ愚だろ「や是は有難い」と云ふ正木の言葉、それから綾子の實驗談、之れは頗る長いものであつた。その長い話の最後は「他の物を入れると油が沸騰するとは何ぜでせう？それには私、ほんとに弱りました、今少しで止めにしてしまふところでした」と云ふことであつた。「ははは、」正木は高く笑つて「高等女學校の理科つて、役に立たぬね、油が沸騰するなぞ思ふからそー云ふことになる。油と云ふ奴は、中々一〇〇度や二〇〇度で沸騰するものではないぞして沸騰するときは全時に分解を起して甚しく煙を立てるものだ。それに火でも一寸近けやう



ものならそりや大變だ、あなたが不審に堪え得んで一先づ鍋を卸したと云ふは大出来、ぼつと鍋一面に火になつて見なさい、落付て静に蓋でもすればよいが、慌て、鍋でも覆すそこで、事茲に至つて萬事休す」となるのだ。例に依て正木の話しは横路に走り込んだ。

「ほんとにそーでしたね」と綾子は感に入つた様子である。

正木は勢よく掻き込むこと數回、再び話しし首題に復つた。

「油か沸騰するなんて言ふからいかぬ。之に物を入れて泡の立つのは、油の沸騰に由りて起るのではない、入れた物に付いて居る水分の氣化するが爲めに起るのである。それであるから見なさい、日外も云ふた通り水は沸騰に當ては多量の氣化熱を要するものだから、物を入れ初むれば油の温度はずん／＼と下降する。こゝが一つ注意すべき點で、普通の味噌汁等で物を煮て居るときは、いくら火を盛んにしたところで百度邊よりは上りもせず、又下りもせない、兎に角沸騰と云ふ現象を見て居

る間は、然るに油で物を煮ると云ふ場合はそーは行かぬ、油が二五〇度にあるとき物を入れても、綾さんの所謂沸騰は起る、一五〇度で入れても起る、一〇五度で入れても起る、要するに一〇〇度以上の温度を有するなら何時でも起る。故に沸騰をして居りさへすればいつでも油は全温度にあるとは云へぬ、從て油で物を揚げると云ふ場合は、油の温度如何に注意することが肝要となつて來るそこで今度は油の温度を支配するものは何であるかと考へて見ると、一方には鍋の底より入り來る熱、他方には氣化によりて逃げ行く熱、此二つが主なるものである。故にこんろの火はよし衰えずとも、氣なしに澤山の物を投げ込むときは、油の温度は著しく下降する。下降した結果はど一なるかと云へば、油が深く品物の内部迄浸み込むが爲め、之れを引き揚げてもからりとしたものは出來ず、味も亦甚だわるいと云ふことである。若し之と反對に、火力が甚だ強いのに加へて、品物を入るゝこと餘りに徐々なるときには、油の温度は漸々に上昇して、遂には煙を出すにも至り、又動も

すれば物がこげる心配がある。若し又火力と品物の入れ方が程好い關係にあつて、油の温度が……その西洋の料理書によると攝氏二百度邊と云ふことだ……温度が大体其邊に在るときは、入れると直ちに品物の表面が堅く緊まるからして、油が深く内部まで浸入すると云ふことをしない、そして黄金色にからつとしたものが出来る、そこでそれは甚だ旨いと云ふことになる

▲戦場の覚悟 教練を了へた許りの露國新兵、其演習に如何に振舞ふて可なるやを知らざりしかど其附屬の士官がいと嚴かに全く戰場に在るの心得を以て行動すべしと訓諭を與へたるを以て死も角も此訓諭を守らんと決心したるが擬戦正に酷にして銃砲の響き天地も碎けん許り硝煙又濛々として滿野を蔽へるに至り新兵心に思ふやうこれ余輩の居る可き地位に非ずと只一人尻に帆かけて一目散に駆け出し堂々たる退却を試みしかば該士官は目敏く之を見付け馬に一鞭呉れて追ひ駆け士官なせ、逃ぐるか、馬鹿奴、引き返せ」と馬上より高らかに呼ばはりしかば新兵遠かに立止り氣をつけの姿勢にて明晰なる言語を以て  
新兵「貴官の御訓諭に由り全く戰場に在るの心得を以て逃げ出しました」

割 烹

石井泰次郎

鳥料理

○さしみ、鳥肉を、魚のさしみの大きさに、薄くへぐやうに切り目筋へ入れ、深き鉢に熱湯を入れ、其中へ、笹共に入れ、暫く浸し置く、白く色のかわる時取上げ（笹を持ちて）清き水にて冷し、皿に盛り、わさび或は生姜を添へ、醬油をかけて出す、

がよし

（さしみになす肉は、さし身或は腿の所のよき肉）  
○すき焼、肉を長さ一寸、幅五分、厚さ一分位に切り、さし身庖丁刀にて、二つにへぎ、開くやうになし、（一寸角位になるなり）皿に並べ、切身十切位に對して、醬油三勺、みりん一勺を合せて、血を並べたる上へかけ、暫く浸し置き、取り出し玉子焼鍋にて焼くなり、浸し込み置きたる汁をかけては返し、かけては返しして焼く、  
○つみ入、前に骨を煮出し、スープを取り置き

肉五十匁ばかりを、よくたき、搗鉢に入れ、鹽一匁ばかりを加へ、よくすり、玉子一箇、醬油一匁ばかりを入れ、すり合せ置き、

骨の煮出しを、目の細かきふるひにてこし、四合ばかりを鍋に入れ、火にかけ、煮立ちし所へ、すりたる肉を、箸にて、同じ大きさに、落とし入れ、火の通りしころ、鹽を入れて、味を付け、椀に盛て、出す、

○親子煮、堅魚煮汁一合、味淋酒煮切三勺、醬油三勺、砂糖一匁、を合せ煮立て、其中へ、鳥の細かに切りたるを三十匁、ほど入れ、ざつと煮て、みつばの五分位に切りたるを少し入れ、雞卵五個を、鉢に割り入れ、よくかきまわし、右の鍋の中へまわりより、靜かに落とし入れ、こげつかぬやう、底の方を、かきまわし居り、玉子のかへりし時かろし、深皿に盛る、

梨子料理  
○梅あへの拵方  
(原料) 梨子大一箇、砂糖二十匁、水五勺、梅干中十箇、砂糖三十匁、紅(細工紅の生上味) 味

淋四勺、

なしの皮をむきて、算木形に切り、(輪切三分厚さにきりて、それを二分の表手に切るなり、占考者の用具の算木の形にするなり) 鍋に入れ、砂糖と水を加へて、煮染め置き、

梅干をざつと湯にて洗ひ、種を去り、搗鉢にてすり、馬尾篩にて裏漉し、砂糖を加へ、木杓子にて交ぜ、火にかけ、味淋を加へてねり、鍋をおろして冷し、紅を少し加へて、色をよくなし置くべし

さて前の、煮たる梨の雫を切て、此ひしほの鉢の中にいれ、箸にて掻合せて、皿に盛て出すなり、

○砂糖裹の拵方

(原料) 梨子二箇、水一合、砂糖四十匁、梨子の皮をむき、四分余の厚さに輪切に切り、中心の所を、小刀にてえぐり取り、なべに入れ、水を加へて火にかけ、梨子の柔かになる迄中火にて煮て、鍋をおろし梨子を取上げ、其あとの煮汁の中へ、砂糖を加へて煮、すこし濃くなりし時に、

梨を鉢に入れ、上より此汁をかけて漬置き、一日二日たちて用ゆるなり

○酒煮の拵方さけにこしらへかた

五匁ごめづ、(原料)梨子大二箇、酒一合、酢一勺、砂糖十

皮をむきて、四五分位の厚さに輪切りに切て、四つ位に細長く切り又横に切り、四五分位の角形となし、鍋に入れ、酒を入れ(代り味淋にてもよし)火にかけ、次に酢を入れ、煮込み、とう火にて、柔かになる迄煮て、さて取上げ皿に七つ位つゝ盛て、上より、砂糖をおほひかけて出すなり、砂糖は多き方がよし、

▲女子教育の一注意

細川潤次郎氏

男子は大功は細瑾を願みすと云へる古語の如く、少年敗徳の者も一旦悔悟して有用の人物となる者少からず、今男女の婚期に十年の差ありとする時は、男子は十年遅き此間に過を改め善に遷るの餘地あれども女子は此餘地なく一度び仕出せる過ちは打消すこと能はず、殊に曖昧疑似の間にある過失の如きも女子にありては事實と假定せらるること多し、社會が女子の細行を苛酷に論ずるも亦已むを得ざるなり近年歐米の交際を摸倣するに至り、従ふて嫌疑を遠くるの方法も概ね嚴格ならざれば曖昧疑似の説も生し易き有様となれり、此際

割烹用前掛

第一高女校 教諭

岡本ちか子

割烹用の前掛にも其形色々御座いますが、是まで用ひました物の中で、一番着物が汚れぬかと思ひましたものを御紹介致します。

用布幅二尺四寸長さ二ヤール半(六尺)

縫ひ方

第一、後身の脊の處を細く三つ折組。

第二、前身の肩と後身の肩とを合せて縫ひ、其折は後に返し、前の縫込にて後の縫込をくるみて

まつりつけ。

第三、袖附(袖の方を身頃より一分五厘程出して

附け、折は身の方に返し袖の縫込にて身頃の縫込をくるみてまつりつけます)

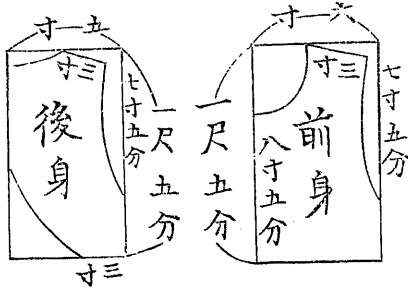
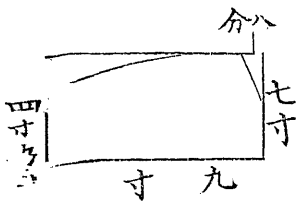
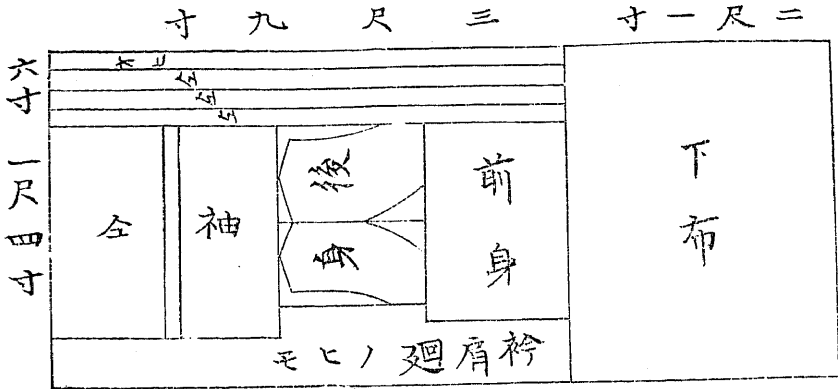
第四、袖下と、脇縫とをついて縫ひまして、折は後の方に返し、其縫込をくるみてまつりつけます)

第五、袖口を細く三つ折紵。

第六、衿肩廻しに紐を付けます。

第七、下布の下の方を三分位の幅に三つ折紵にな

裁方ノ図



衿肩廻の紐は、一寸二分の幅にて長さ二尺五寸位入用で御座います。



し、上の方は一尺八寸位の幅に縫ひちやめてギヤダになし、表裏の帯にて狭みて縫ひます。

第八、上の方即ち身頃に帯の表の方を縫ひつけ、其兩端は普通の紐を縫ふ様に縫ひて引返し、残り部分は、裏にて身頃に紵つけます。

若しミシンを御使用になる御方はミシン縫ならば尙更結構で御座います

### 掃除の方法

醫學士 竹中成憲

前世紀の終りに近き二十年に於て肺病は日本に著しき増加をなせり其原因は武藝時代に比して人民一船に體力減衰せりと交通機關の發達に因り體力減せると共に病毒を散亂せるに因るべしと雖予は他に一大原因として室内に土足出入の洋風を思はざるべからずと信ず西風輸入してより西洋造起りに出入する者は洋服と和服とを問はず靴を用ゆ西洋に在ては此風の古きがゆへに人々之に對する清潔法を心得居り土足とはいひながら頗る清潔な

り彼等が家に到らば美麗なる敷物のために靴のまゝ昇堂するを憚る事あるは洋行者の心肝に銘する所なるべし退て吾人の所謂西洋造を見るに多くは不潔千萬にして外國人に對しては赤面の至りなり是れ土足昇堂の風に慣れず昇堂に際し靴を掃除するの術を知らざるに因ると云はざるべからず吾人は又肺病の恐るべき事を識らず患者一回の痰中には幾億萬の微菌(肺病原因菌)のあるを思はず街路屋内の土間は勿論風呂屋の板の間に到る迄痰を吐く有様なるゆへに吾人の靴の裏には無数の肺病毒附着しあるものと思はざるべからず西洋にても此項洋婦の街路を引さ摺るの長さ婦人服を禁ずるの議ある程にして土足の恐るべきは明かなり先年の萬朝報紙上に左の事あり専門雜誌所載にあらざるを以て是れを以て直に適當なる引證となすは穩當ならざれども參考に資するの價値なきにあらず

婦人服の裾と微菌の數 英國の一雜誌は古き紙幣中には驚くべき多くの微菌を含み居れるが婦人服の裾には更に多くの微菌を含み居り或る

人の檢したる所に據れば裾の綉帶の一片に二萬六千八百個の黴菌を含み居り又帳六吋長五倍なる裾の二片には千〇六十七萬二千個の黴菌を含み居たりと而して婦人が裾を地に引摺る際裾に附着せずして地上に亂れ動き人の呼吸するもの若しくは裾に附着して家に歸りたる後振ひ落さるゝ黴菌は數限りも無きことなりと云ふ

獨逸の結核専門學者コルネット氏は空氣中の結核菌を檢せむと欲し菌重力の規則に擔り下方に沈澱すべきを考へ床板上の塵埃を檢査して果して結核菌を得たり尙ほ其生活力の有無を檢さむとして該菌を動物(メール、シウワイン)の腹膜下に注射し其動物に結核病の新生するを見て生活せる有力なる結核菌の塵埃中に在るを確めたり尤も西洋に在るは街路の塵埃中本菌を發見せる實例は今日迄は比較的少かりき

之に反して肺病者の室は肺病黴菌を以て充たされあるものと想像せざるべからざるが故に疊の上ですら濕りたる布片を以て拭ふを良とし普通の如く箒にて掃くは危險也若し掃く時は其後二時間以上

其室に入べからず、何となれば其室内の塵は凡二時間を經るにあらざれば床板上に沈澱せざるものなればなり故に掃除に就ては十分の注意をなさざれば黴菌吸入の結果既に肺病あるものに更に同一患者の肺の他の健康部に新なる肺病を起さしむる洵に恐るべき事ならずや退て土足昇堂許可の我所謂西洋造に於ける床板の掃除の様を見るに普通疊の上を掃くと少しも異らず塵風雲をなし咫尺を辨せざるものなり是豈官吏會社員等に肺病多きの理由にあらざるや試に掃除時間以外に於て彼等公務中に於て彼等の室に在て太陽光線の射入するの所を見よ細塵雲煙をなして霧の如し此細塵を衛生學上(太陽塵、獨逸語(ゲンネン、スタウブ)と云ふ實に此塵は靴よりも來るものにして肺疾は勿論他の疾病(例て化膿)の原因となる所の小有機體(蟲)を含有す此室内に於て日々八時間の勤務を爲すもの而して其身體は神經衰弱的の骨川瘦吉的なるもの如何にして此病毒に打勝を得む學友東京府技師遠山椿吉君は前年より如何に結核菌が人跡到る所に瀰蔓せるかを證せ

ひと欲し學校停車場公廳官舎等に於て塵埃を採取  
 し之が中に菌の有無を検せる事一百十四回而して  
 此の中菌を發見せる事十回なりき先年岡田博士も  
 同様なる試験を爲せり豈寒心せざるを得むや  
 鐵道には此項「列車給仕」なるものを置き乗客の用  
 を辨するの外車室内の掃除を爲さしむ甚だ可なり  
 といへども其掃くや塵埃雲を爲し給仕自身は勿論  
 (給仕は呼吸器を用ゆべし)乗客をして無數の微菌  
 を吸入せしむ客にして辨當にても用ゆるあらむ乎  
 微菌を喰はざるべからず此塵埃を作る所以のもの  
 は我國人の靴を使用するに當ても之を拭ふの道を  
 知らざるも列車には下駄の儘入るを許しあると一  
 般公德觀念の缺乏との三事に歸因す列車内は街路  
 (我國の)と異ならざるなり故に我國列車は外國の  
 者と日を同して論ずべからず  
 借吾人は此塵埃を防ぐの方法を講ぜざるべからず  
 而して其方法たるや甚だ簡單なるものなり即ち  
 「濕潤法」を探れば足る予の獎勵する法は鋸屑(青  
 森)のこくす「越後ふさ」のか「ひきぬか」の訛「東京  
 「おがくす」に十分水を含ましめ之を床板上に散布

いて後掃く也此の法は敢て予の發案にわらず西洋  
 にては夙に之を用ゐ我國にても食鹽又は茶渣を疊  
 の上に散布して而して後掃く事あり、同一の考案  
 なり予曾て青森能代間鐵道開通式に臨み能代の材  
 木會社を參觀し當時同社に於て鋸屑を空しく放棄  
 するを見て之が利用の途を考へ之に消毒藥を含有  
 せしめて便所に臭氣止として用ふるの考あるに先  
 ち之を上記掃除用に供せんとす願くは官衙會社學  
 校列車等一般之を此の用に充てむ事予の深く望む  
 所なり鋸屑は到る處にあり夏期に在ては氷屋の濕  
 りて用を爲さざるものを用ゆるも亦可なり又此の  
 頃左の事を新聞紙上に見たり果して實用となるや  
 否や  
 塵の立つを防ぐ油 此頃埃太利に塵留藥とも稱  
 すべき一種の液濟を發明したる者あり一見棉花  
 油に異らざる由なるが維納にての實驗に依るに  
 此の油を年に二回床の上に散布すれば一週間一  
 度位の掃除にて十分にして而かも掃除の間少し  
 しも塵の立つことなく極めて清潔に室内を保ち  
 得る由にして既に旅館劇場圖書館等の如き多數



群衆の雜踏する所に用ゐて奇効を奏したりと云

ふ

予の法は即日より何人も之を實行する事を得て價亦極めて廉なり

(右一篇は婦人衛生雜誌に載せられたるもの有益なりと思ふが故に轉載せり)

英語でレディー(貴婦人)と云ふと上流の人のことである。外に重いものを持たない人の様に思ふて居る人が随分多い。甚だしく虚榮心の婦人は殊に臺所などに顔を出さないのが貴婦人の貴婦人たる所の様に考へて御座る心得違ひもあるが一体此レディーと云ふ字の語源は如何と調べて見ると錦繡を纏ひ綺羅を飾る人を云ふのでなくて爐邊に立ちて麵麴焼きをする女の事である。即ち麵麴焼きの出来ぬ女はレディーではないのである。して見れば婦人にして厨房を自らせざるものはレディー即ち貴婦人と云ふことは出来ない譯だ。

### アメリカの寺小屋

朝露生

三十二

わけもわからずに聲はりわけて、讀むは實語經に童子經、商賣往來に庭訓今川など、手習は義經の腰越狀、算盤は塵功記、かくて一日の科業をすましたのは、吾等の前代の學校、即ち寺小屋であつたとき、ました。思ひさや、文明を街ふこの國にて、長髮短袖のお師匠様となり、花籃の上に教壇をしつらひ、ギアスの火影に寺小屋を開くことゝならんとは、いでやその滑稽じみたる村夫子の舞臺を廻して御目にかけてせう。

わが友と二人にて經營して居る教會、大森博士に賞賛せられさうな低き建物の、大地震を豫想しての借家ぞと云ひたひが、實はあるべきものゝわらなくにわりなくもこの塙末にひつこんで居るのです、友の斡旋にてこの一二年來會員も多くなりどうやらこうやら維持の方法も立つて居るとのこと、桑港の下女は玉の輿ならぬ漁船に乗て、この、家に縁づきましたのは六月十日のたそがれ時

でございしました。  
 日曜ごとの説教と家庭訪問などのうちに、冥加に  
 余つた天職と喜ばしく思ふことのないでもありま  
 せぬが、それは佛弟子となつて見ねばわからぬこと、  
 役者の自信や抱負は御見物に一々披露するにも及  
 びますまい。  
 日本人児童を集めて國語と日本歴史日本地理など  
 を教ゆるは、わが寺小屋の第一部であります。生  
 徒といふは朝九時より午後三時まで白人の小學校  
 に通ふて居るのでありますから、こゝへは三時半  
 ごろ参ります、男女合せて二十名足らず、何れも  
 この國にて生れたるあるは布哇にてあるは英領  
 イクトリヤにて黒さ瞳を開きたる子たちでござい  
 ます、國語讀本の講義をするに英語を用ゐねばか  
 の人だちに理解むづかしく、備忘録にするす横文  
 字は、教ゆるものよりもはるか巧みにて、髪黒さ  
 ヤンキーに日本語を教授する心地、まことに奇妙  
 なる感じをいたします。  
 長時間の押賣をして彼の人だちのいたいなき腦  
 を傷つけんよりはと一時間より長くは學ばしめぬ

やうにしてゐます。  
 智識の程度はこの國ぶりの小學校だけすゝんでゐ  
 るのでありますから、さまでの困難もなく、おさ  
 ん時代のチキンローストをつくるよりも、面倒が  
 ないのです。  
 されどわが國ぶりの種一粒、心々の底に植えつけ  
 大和なでし子うるはしきが上にもうるはしく、異  
 國の野に咲きほこれかしの志、力足らぬ身には  
 寧ろ危懼の情交々起るゝみにて、ゆく末のことま  
 ことに心ぐるしく、いつの日その幾分かを果すこ  
 とかため息をついて居るばかりです。  
 命運のさだめなればいたしかたなきも断ちがたき  
 恩愛を母國の教へ子とたちて、流離落魄一年あま  
 り、是にかゝる不思議なる教へ子を得んとは思ひ  
 かけざりしところ、思はぬ人へのぞまれて、結納  
 をすましてのちも、初恋の花の香わすれがたくて、  
 かへらぬ昔を偲ぶといふ小説の筋にも似たること  
 よとつばややし折もございしました。  
 しかし母國の佛苗よりは通信絶へず、相見ても相か  
 たることなしがたくと、この想、かの想、太平

洋の隔てもなく通ひ居ることでありませうから、わが花園は新世界にも出来たることゝあきらめて愛の眞清水、この佛苗だちにも惜しげなくそいませう。

忠君愛國といふこと、米の飯の頂き慣れて、勿体ないが珍らしからぬことのやうに思ふたこともありませんでしたが、遠く遊びていよゝ君恩の重さを感じ母國と云へる觀念いと一切になりませう。争はれぬ事實でございませう。ましてや出来ぬまでも國民性の陶冶をつとめんとて、この子だちの老友となりしもの、雄々しき希望は涌くが如くでございませう。

夫婦を家庭の基礎として、個人を中心に發展をはかるはこの國ぶりのやうであります。父子を一家の君臣として、利他的献身的に孝悌をつくりて居る絶東君子國の倫常は、よしや世界の黄金を悉くさげ來れりとして、いかに賣ることは出来ませうか、個人主義は佛法で云ふと羅漢小乗の卑見でございませう。自分の迷を去りて解脱を得たら宜しいと思ふて居るらしい、忠孝の道は菩薩大乘の

見地です。自分とはかくさもあらばあれ、わが君幸多かれわが親幸多かれとの尊き願、詩としてはこれより美しきはなく、哲學としてはこれより高遠なるはなく、宗教としては直にその極致を示して居るのでございませう。オルガンをかんで、教へ子だちと君が代を合奏するとき、百千の經卷をよみ畢つたやうな想いたします。

子だちの父母は、金ほしさにこの苦闘國にきて居るのでありますから、いつも陣中にかりねして居るやうな有様、家庭の訓練などとても出来ぬわけがないのです。共に遊ぶは碧眼の腕白兒童ばかり、さける日本語は余りにも元氣よき罵倒流、黙禮することだに知らぬ子がございませう。

信者の家庭訪問せるとき、子だちのホームには特に想をよせて觀察したのであります。情けないと云ふてよきか悔しきと云ふてよきか、まことに金が仇の浮世でございませう。

四層五層の樓閣には、金だにあると黒人でも猶太人でも大威張りして住居して居りますが、金のなき同胞は多く最下層のベースメントに巢をかまへて

居るのです。

ある子のホームを訪れましたが小さけれど怒り  
てさまで暗からぬベースメント、母なる人は白人  
と労働のかけ合ひ最中でございました。父は終日  
そとに働き母はその日その日の労働口を求めて、  
一週二日と家にとまる晝はないとの話、その子  
は父母のかへるまでは戸外にのみ遊んで居るの  
でございます。

またある子の父母は、とある廣地に花鳥をもつて  
居るので、父は終日水を灌ぎ母は終日枝ぶりを直  
し、子はその花の中において遊びては眠り眠りて  
は遊ぶ外、何のなぐさみともなく、とびくる蝶  
々を友とするばかり、まことに可愛さうに思ふた  
のでございました。

同胞のうちには商店をいたし居るもあり職工を澤  
山使ひて事業をなして居るもあり、まんざらペー  
スメント連のみではありませぬ。されど戦大な  
れば大なるほど、参謀官も大將も寸暇なく活動せ  
ねばならじ、家庭の穩健なる感化力はどのみち乏  
しきことを免れぬとは、子たちのためにまことに

悲しむべきことでございます。托兒場の必用を吾  
人も感じて居るのでありますが、まだよき機會  
がないと見えて、出来て居りませぬ。

よしや一日一時間のみのつどひにもせよ、わがま  
でゝるの子だちにうつらぬことあるべしや、吾は  
あらんかざりの親情をわが幼き友どちに傾くべし  
と御佛に誓ひました。

第二部は夜學校です。初等英語の研究するので  
ありまして、程度はそれぞれ別であるために、わ  
が友と、外一人と、三人にて手わけして教へてゐ  
ます、終日労働して、夜間ダイヤモンドよりも尊  
きタイムをとり、學ぶことのために惜しげもなく  
そを費すのです。この一事のみにても敬愛の情を  
さ、けず居られませぬ。八時よりはじめ十時に  
終りてより、それからまだ働く人もあるとのこと  
おばあさんの角を折るのが御寺とすれば、アメリ  
カはまことに書生の角を折る御寺でございます。  
わがまゝも高慢も是にいたりてはまた頭をあげ得  
ざるもの、堪忍の袋の底ぬけては、今日主義の意  
久地なき失望者となるべく、急に破れては亂暴狼

籍なるものとなりて始末にこまる事なるべし。そのほころびのきれぬやうに慰撫し獎勵いたしたいものであります。

寺小屋の二階には四ツ、下には三ツのルームありて、ベッドの數合せて十數個、わが友は二階を、吾は、下を監督して寄宿舎をやつて居るのです、その日その日さだめなき勞働に出づるもあり、あるは鋸引を十時間なせしと云ふあり、あるは園丁となりて花香を衣巾にとめてかへるもあり、あるはキャンデー屋に働きて夜の十二時ごろかへり來るもあり、酒屋の掃除人となるもあり、一週十弗以上の金をつくらんとするには、とても勉強などするタイムを得られぬのでございませう、土曜の夜のみはまことに重荷下したらん心地して、得も云はれぬたのしみありと、人ごとくに云ふのをさく、ひそかに涙をこぼしました。

國にありて指折り數へて飯り來るをまてる人、慈愛温かき親もあらん、友愛うるはしき友もあらん兄とたよる弟妹もあらん、清き想を纏綿せしむる戀人もあらん、いまの苦境は成功の山の半腹には

相違なきも、愛する人の心からは荒き風の黒髪を吹くだに憎ましきに、波濤つねにやまぬ人生の沖に、今霄も一孤舟をあやつりてはなれ小島にこぎよせし心、身その境にあるよりも、遠く想ふ方は胸くるしきこととございませう。

厨房には老夫婦すみて朝はこの國ぶり、晝と夜とは純然たる日本食をしつらひ、廉價にてやどれる人々に供給してゐます。

狭けれど庭には百草千草の花さきみだれ、會堂の花瓶には日ごとに露帯びたるまゝ、掃まれて、供養のため、ろを表はしてゐます。應接の間にはわがためのベッドありて、たゞ、ひと筆筒のやうに見ゆるものが、裝飾の一つとして是に置き上に書籍の

あらんかぎりならべて置きます。

午前は長松となり午後三時半ごろよりは學童の友となり、八時よりは青年の友となり、いつも十一時近くなりて漸く眠ることにしてゐます。

午後のはじめのタイムにてどこの白人の家庭に通ひ今すこしく勉強したひと思ふてゐます。寺小屋の先生となりて、自分の學業を等閑にするは本

意ではありませぬ。

されど病軀の勞働いと骨につらく、よしや學業にもせよこの上休養のタイムを削ること、壽命を削るの愚に近いのでありますから、長松と寺小屋の過渡時代は、ほど近き湖畔にでもそゝるゐるさして、一陣の涼風に萬事を閑却しやうと思ふてゐます川柳に曰く先生と云はるゝほどの馬鹿でなしと、鈍子變じて先生となる、彌々阿蒙のミイラが出来あがることのでございませう。自ら祝して曰く御目出たいかなと、

(丁)

▲古昔歐羅巴では結婚した時から三十日間は蜂蜜で製した一種の飲料を用ゐねばならぬ事にして居た。そこで此卅日間即ち一ヶ月をハネムーン(蜜の月)と云ふことになつたとの事で遂には今日歐米に行はるゝ結婚旅行と變つたのだ。

▲先頃米國は紐育の一新聞紙は下の如き事を計算した。曰く同市にては平均六分毎に出生、七分毎に葬式、十時毎に入殺し、一時間毎に新建築、四十五分毎に出火、ある勘定なりと、

雜 錄

●少女の富士登山 大阪なる吉弘某の女政子(九才)が富士登山の報新聞紙に傳へらるゝや彼處にも此處にも之を真似るもの續出し中には十一二才の少女をして單身箱根地方を旅行せしむるものさへあるに至れり、左に記するも其一なり。  
本郷區の六十一出版業杉本勝二郎氏の長女君子(十一)と云ふは目下、駿坂私立習性小學校高等二年生の少女の身ながら暑中休暇を利用して單身箱根、大磯地方を旅行して紀行文を作らんと志ざし兩親の途中を案じ危むを強ひて許しを請ひ金十圓を懐中にして新橋驛を出發したるは去る九日午前八時二十分の事なりし、兩親は出發の間際にのぞみて宿に泊る時は知らぬ人などには相談せず必ず其土地の駐在所に行きて巡查に宿の周旋を頼むがよしと呉れ、一昨、日兩親の許へ届きたる二通の葉書には左の如き文言を認めありたり

十時二十分すぎに、藤澤につきました、それから十時三十五分  
に江の島へ無事に着きましたから、御安心下さい

八月九日

片瀬にて

杉本きみ

杉本勝二郎様

昨日あれから、すぐ藤澤へかへりました、それから、じゆんさ  
に、やどをとつてもらなうと思ひまして、中さい所(駐在所か)  
へ行てたのみましたら、東京のまん申の、い、おばあさんが來  
て、私の内へいらつしやいといつて、じゆんさとかげやつて、  
おばあさんが、つれてつてくれました、そして、そこでとまり  
ましたから、御安心下さい

八月十日

藤澤にて

杉本きみ

杉本勝二郎様及母上

先には菓子爵が其三女をして打ち連れて旅行せし  
めたるに思ひ合はせて、世の人の漸く旅行に重き  
を置くに至れるを知るに足れど、吾人は其餘りに  
奇蹟に走せて教育上有害無益の結果を收むるに至  
らざらんことを望んで止まず、彼吉弘某女が單  
身の登山も名こそ單身なれ、實は知己より知己へ  
と其保護を頼めるものなる可く純粹に單獨なる旅  
行は得爲しがたきものと信ず。此邊の辨へもなく  
妄りに少女を手放すことは餘りに賞めたもの

にもあらざる可し。

●富士山の暴風雨 女流の登山者近年著しく増  
加したるが上に今年は例年になき好景氣にて登山  
者頗る多數の由なるが、是に就けても注意す可き

は山上の天氣なりとす。凡べて高山の氣象は之を  
平地に比するときは頗る變化多きものなれば登山  
者は必ず万一の用意を怠る可からざるものとす、  
本年も去る七月廿五日の夜より山上は非常の暴風

雨にて同日登山のため五合目に宿泊せし静岡縣吉  
原町、愛媛縣松山市及び東京等の連中七十餘名石  
室に閉籠りたるまゝ進退に窮し二日間の滞在に食

料盡きて餓鬼道の苦しみ、加之に寒氣を防ぐべき  
燃料もなく菓子箱まで叩き壊して燃す騒ぎにて二  
十七日漸く風雨の小止みを伺ひ登山したるも天候

尙險惡にして一同の恐怖と疲勞甚しく辛うじて  
下山したる程なりしと云ふ。  
●女教師の招聘 過般伊澤修二氏の許に北京在住  
の友人より清國官立學校講師として日本女教師を

傭聘したき旨申越したるにより同氏は早速女子清  
韓語學講習所本年第一期卒業生中の才媛二名の履

履歴書を送付したる由にして近々に右二氏の内一名採用の通知あるべき筈なりと云ふ。  
● 文部省家事科試験問題 過般該省内に於て施行されたる家事科豫備試験の問題なりと云ふを聞くに左の如し

一、夏期數十日間海濱の別荘に居住せんとす左の諸項に就き各自の考案を述べし

イ、單備 ロ、子女教育上の注意 ハ、主婦の日課 ニ、實際の心得 ホ、臨時客に對する饗應の獻立

二、左の場合に於て親戚の家に贈物なすには如何なる品種を選ぶべきか又其返禮は如何にすべきか且つ總べてに就きて裝飾の方法を併せ記すべし

但し上下の筈差並に季節は隨意たるべし

イ、金婚式祝 ロ、男子誕生祝 ハ、饌別（歐洲漫遊の人を送る） ニ、洪水見舞 ホ、甲冑

三、中等家庭に於ける支出の項目を列舉し各條に就きて經濟上

注意すべき要點を述べし（右四時間）

● 小學兒童間の流行病 愛媛縣越智郡龜岡村の尋常小學校生徒中兩三名一昨年頃より頭髮に白髮の雜るものあり最初は只だ若白髮とのみ思ひ居たるに其の數次第に増加して昨今は百餘名も白髮となり加之隣村小西尋常高等小學校中にも同様の生徒

を見るに至りたれど醫師も其の何病と云ふ名稱は附し得ず其の地方人は只だ白髮病と稱し居る由此病氣は頭髮白くなるのみならず顔面の皮膚にもなますの如く點々白色を呈するものあり尤とも數ヶ月にして其白髮は抜け元の黒髮を生じ身体にも異狀を感ずる事なしと云ふ

● 學女教師の收入 女子の職業漸次隆盛となり立派な官員さん迄出で来る今日、工場と云は商店と云はず、彼處にも此處にも女子の雇員歡迎せられ、従つて何處の家にも下女はした女の給金の騰貴には驚き居ることなる可し。斯く女子の職業盛なる中に何か一番女子に適當にして且上品に然も收入多きかと云はゞ女教員と云ふの外あるまじ。夫れも高等なる學校に至りては自ら夫れ相當の資格、學力を要す可れども、尋常小學校若しくば幼稚園等にありては然したる學力も要らずして相當なる收入を得ること誠に容易なりとす。今東京市内に於ける女教員の收入を聞くに

麹町區 一人平均收入 約 二十圓  
神田區 全 十七圓五十錢



日本橋區	全	十八圓五十錢
芝區	全	十八圓五十錢
麻布區	全	十七圓五十錢
赤坂區	全	十七圓
四谷區	全	十六圓五十錢
牛込區	全	十六圓五十錢
小石川區	全	十五圓
本郷區	全	十五圓
下谷區	全	十七圓
淺草區	全	十八圓
本所區	全	十五圓五十錢
深川區	全	十七圓

以上を悉く平均しても一人前十七圓三十錢余となる。勘定なりと云へば之を日當何十錢の女工や月八圓の遞信省雇に比すれば仕事は高尚にして樂み多く且労働の時間も少くして遙に有利のものとなる。ふことを得可し。此他看護婦、産婆、等あれども是等は人に依りて好き嫌ひあり且何れも純然たる専門的職業にして特別なる修養を要するも下級女教師は一般女子に必要なる育兒導法を修め常識の根基たる普通學を修得するの外何等特別の修養

を要するとなければ女子の働く可き處としては最も適當なる處なりとす

●新式圖書教材 女子美術學校にては先頃より國旗、帽子、インキ壺、罎、椅子、土藏、鞆、書籍等を紙又は木にて雛形を作り之に實物同様の色彩に施して生徒に圖書を教授しつゝあるが同校幹事磯野吉雄氏は圖書教育の現狀に於て一般小學生徒が實物寫生の力に缺くる所あるより多年苦心の結果遂に此種の新教材を發明したるものにて右に就き同氏は語りて曰く予は小學校に於ける圖書の成績を見る毎に不滿の點數なからざりしが滿七ヶ年小學時代に於て施されし圖書教育の結果は僅に一方形の物体だに寫し得ざるほどにて其原因に就ては第一教員にして圖書技能の熟練と趣味とを缺ける事第二其の教授法の宜しきを得ざる事第三適當の教材を缺ける事等なり予は専ら圖書教授の職に在る以上之れが教育の振興を期するは當然にして其方法に就きて大ひに苦心し多年の経験と正木東京美術學校長の指導に依りて遂に前記の如き教材を考へ出すに至りたるが即ち木、紙、金屬等を

以て種々の形体摸型を製作し其の週圍線又は分界線等を最濃良を以て着色し之を用ひて兒童をして極めて簡易に立体形を平面畫面に描寫せしめ之が使用の順序は通常の寫生法に依りて最初直線曲線より方圓形等漸次に複雑なる形狀に進み物体の遠近陰影等一見の下に之を會得せしめ且つ種々の色彩を以て着色せる爲め自然兒童の感興を添ふるの便利を有しつゝあり云々。

新刊紹介

▲女子東京入學案内 大田龍東 著

入學案内の刊行せられたるもの頗る多くして然も何れも不忠實ならざるはなきに此書は著者の教育的眼光に照して各校の特長生徒の模様につきて一々批評を試みたるは從來のに比して一異彩を放てり。第一章には普通教育を施す所の高等女學校若しくは同程度の學校につきて第二章には實業教育を施す學校につきて各學校の沿革規則及現況等を述べたり。而して終には入學試験の注意數頁と入

▲日本家庭辭書 西山慈次編  
學試驗問題數十頁を附加せり。定價四十錢神田區神保町福岡書店發行

辭書の流行は今や其極點に達せりとも評す可し。此時に當りて本辭書の出づるは怪むに足らねど後ればせに出でたる本書は其内容果して如何にやと手に取れば是は又意外に能く整ひたり。語の排列は五十音順により別に第一第二の索引を付け家庭の組織制度より育児、衛生、教育を始め娛樂園藝の細道にも及び總べて家庭に關する一切の事項を網羅せり。而して其説明を見るに略其要を得て繁簡宜しさを得たるが如し。之を從來の紛々たる家庭辭書に比ぶれば大に逕庭あり、井上圓了博士が「照盡家庭小天」を評せるは適切なりと云ふ可し。四六判にして頁數七〇〇語數約一千二百用紙もよき裝飾は温雅にして清秀家庭の備本として實用と裝飾とを兼備せしむるに恰好なるものなり。發行所は京橋區南大工町弘道館、定價壹圓參拾錢尤も發行書肆は特に三方部限り大割引を行ひ特價金九拾錢を以て發賣し居る由。

雑誌と新聞

▲婦人の誤解 萬朝報

女尊男卑の風の如き泰西諸國に在りては一般に行はるゝと論なしと雖も、家庭に於ては男子が主裁者たること諸國を通じて然らざるなく、女尊男卑の風に社交上に於て行はるゝに過ぎざるなり、自由結婚の如きも名は自由結婚なれども父母の承諾を得ざるべからざることは何處に於ても同じく、不義なる結婚に對しては社會上の制裁を有するを以て、結婚に關しては寧ろ我が邦の自由に過ぐるやの感あり、又た泰西諸國に在りては、丁年未滿の女子の獨行を禁じ、父母の同行するに非ざれば外出を許さざる等我が邦に比しては監督一層嚴重なるものあり、又た西洋婦人は一般に社交的なりと信ずるものもある、社交的なるが爲に身分不相應なる交際を爲すものなく、絶えず客を招きて饗應を爲すが如きは、多く上流社會の人に限らるゝとなり、西洋婦人には獨立して職を求むるもの多く其職業は著し

く増加しつゝある如くに考ふるものあり、是れ事實なりと雖も、今英國の統計に就きて婦人の職業別を見るに、最も多きは婦人の娯結にして次は裁縫師なり、是れと我邦同一なる現象なるに非ずや、西洋婦人は政治運動に干與し、女權の擴張に於て男子に譲らざる如くに思惟するものあり、是亦皮相の見にして政治運動に干與する婦人は泰西諸國に在ても僅に指を屈するに過ず、英國に於ては議會内に櫛を設けて此櫛内に在ての外婦人の傍聴を許さざる程にして、曩に同國の選舉運動に二三の婦人が夫の爲に奔走したるをありとて佛國の新聞之を佛國になきとなりと記せり、泰西諸國の現今婦人々名辭書に就きて見るに婦人の本分を離れて傑出したる人は稀にして、眞妻賢母主義は依然として最も健全なる思想として遵奉せらるゝをを知るに足るなり、獨逸はニイチエの感化を受けて婦人は近來頗る粗暴に傾きつゝありと稱せらるゝも、其婦人中殊に男優りなる闊秀文學家クラ、フイービツヒすら「婦人は不完全なる自然の製作物にして男子と結合するに非ざれば完全な

る一体を爲す能はず」と稱し居れり、以て泰西婦人の一斑を知るに足るべし  
 一時の風潮に伴うて善惡の差別なく徒らに泰西熱に浮かさるゝときは、却て我邦特有の美風を損するに至るべし、若し西洋の風に倣はんとせば、漫りに其外觀に眩惑せらるゝとなく仔細に其真相を観察し、最も着實穩健なる風を模すべし、輕佻浮薄は決して泰西婦人の長所に非ざるなり

▲舅姑問題と老人問題 「家庭之友」

舅姑と新夫婦との別居同居問題に就ては舅姑と老人とを混同してはならぬ、舅姑と云つても老人ときまつたものでない、少くも其舅姑が一定の職業を持て社會に動てゐる間は老人扱ひにしたくない、ただ動てゐる舅姑ならば概して別居する方が好い、其故は一の家庭は一の國家であるから二個の同一の権力があつては衝突の起るのは當然である、互に少しづつ譲り合ふといふのも無理な注文である、東洋流の消極的道德で服従を強ひ互に不愉快と不自由を忍んで同居し種々の精神上の罪惡を造り出すよりは寧ろ別居した方は道理

にも適ひ又便利である。併しながら既に活動を止した舅姑ならば新夫婦は進んで同居し愉快に餘生を樂ましめ、間接には其圓熟老成の感化を受けるやうにありたい、老人と子供は家庭を幸福にする最大要素であつて、此舅姑ならば別に衝突を惹起すやうなことは無からうと思はれる

▲天に貸せ

森村市左衛門

人は何でも末永く考へて働くが好い、仕越した仕事は天に預けたと思へ、六圓の給金取が十圓取ほどの仕事をしたら、アゝあれ丈は人に貸したのではない、天に貸したのだと思へ、十年八年と時日を積んだら主人又は他人に其眞價を知られて凡ての人から意外に信用される、即ち利子迄附いて来ることとなる、人は苦まなくして成功せらるゝものでない、仕事に不平を越して辛抱の出来ぬのが第一宜しくない、人は皆な良心を持てゐるなら自分が好い事を仕、好い物を作る時は喜んで迎へ喜んで需める、商賣人として世に立つにはチャンと世界の先き／＼まで見通しがついて居ればこれに越すことはない、掛引は餘り入らぬ、確實に眞理を捜し出

して其れに當て嵌めて行けば好い、マナ若い人は精一杯に働くことだ仕越した事は其時報酬がなくとも夫れは天に貸したのだと思つて辛抱して行くが好い、さう仕て居れば天は人を成功させずに置くと云ふ事はない、西諺に天自ら助くる人を助くと云ふではないか

▲欧米婦人と日本婦人 高木兼寛

●體育上の比較 欧米の婦人と日本の婦人との體育上の比較は到底比べものにならぬ、假に双方を列らべて立たせて見たら日本の婦人は全て小人島の人種を見たやうである、欧米の教育法は先づ體育から始め、既に充分發達したる母は、其身體の保存に就く注意すると同時に、其子弟をして己が發達したる程度より以上にまで引上げることを勤めて居る、故に服裝の如きは最も運動に適するやうに作る、本年の米國婦人流行服は袖が肘限りであつて、娘の間は別に飾もなく、只々運動に適するを目的として、起居進退が活潑に出来るやうになつて居る、日本のやうに下駄を履いて轉ぶことに心を掛け、チヨ／＼歩きをするやでは、到底立派な

體格を作ることは出来ない、日本でも近頃は婦人の山に登ることが流行して來たやうであるが、外國婦人の山に登るば中々素晴らしいもので、男女共同して登るのである、自分の實見したのは三人の婦人に一人の監督婦人が添ひ、又三人の男子にも一人の監督者が添ふて、都合男女八人連れの登山であるが、男子の方が力強い丈けに二人分の糧食を負ふて登り、婦人は男子に劣らぬ程の輕裝をして、登ると云ふ風である。

●德育上の比較 欧米の婦人は子供を善く愛するけれども、常に鞭つことを忘れて居らぬ、少しでも軌道を外れた行ひがあれば、嚴格に矯正せしめて少しも容赦なせぬ、故に子供は上長に對して甚だ服從的精神に富んで居る、隨て獨立的生活を營む上に於いても非常な効果を奏するか、日本では父母の心に一定の軌道がないので善惡に對する標準が立たない、且つ子供を保護することに過ぎて、自己の病氣の容體さへ醫師に向つて表白することの出来ない娘が多い、欧米では男女共學をさしても少しの過失がないが、これは

一定の軌道を踏んで居るからである。日本では神に頼るとか佛に頼るか、死に角從來の慣習標準として居るに過ぎないので、甚だ根據の薄い教育をして居ると思ふ、吾輩の考へでは神も佛も要ぬ、教育勸語の主旨を充分に了解して子を育て上げる父母が必要であると思ふ。

●智育上の比較 智識の點は尙一層日本婦人の方が劣つて居ると思はれる、歐米婦人の智識を求める方法は非常なものであつて、現に近頃日本に渡來した一婦人の如きは、四人の子を携へて世界を漫遊し、さうして子供等の智識を啓發せしむることに勉めて居る、此一事を以て見ても、到底日本婦人は智育に於ても歐米婦人には及はぬと云ふことが解かる、日本で歐米に勝る處は陸海軍の智識のみで、その他には何一つとして跨るに足るものがない、況んや婦人の智識の如きは最も低くて外國人との實際の道が開けても、外國人と共に遊ぶ仕方さへ知らぬ爲めに、手を携へて相樂むと云ふことは出来ない、音楽も知らぬば舞踏も出来ない、話しも出来ぬば歩くことさへ充分に出来ない、そ

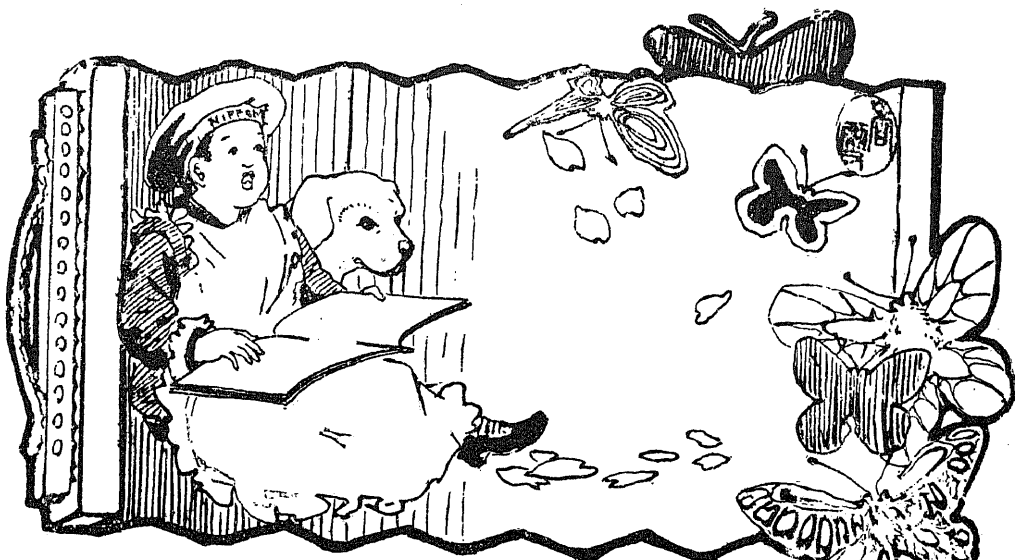
れで以て強國の仲間入りをしたいと云ふた處で、少しも威張ることは出来ない、故に吾輩は婦人の教育も男子と同等に高等教育を授けて、世界的智識の啓發に勤めることが必要であると考へる。

▲犯罪と婦人の關係 小河滋次郎氏

(『看護婦』第六號)

犯罪者は女子よりも無論男子の方に多い△日本では男子は十万人に付き犯罪者五百五十六人、女子は僅に九十一人の少數である、即ち男犯罪に對し女犯罪十五人となる△女犯罪の少數なのは全く社會的關係に因る、日本在來の家族的制裁に因る、女子が外で働くのを制するから犯罪の場合が少い、其證據には女子が段段外に現はれ出した今日は段々女子の犯罪數が増加しつつある△然らば在來の家族的制裁が好いかと云ふにさうでない、女子は從來迫害を加へられた爲に隆に立て男子に犯罪を行はしめた△女子の方が隆に隠れてゐる犯罪が多い△男子の犯罪の徑路には必ず酒と博奕と女との三つが伴ふてゐる、とりわけ女に關係を持ぬ犯罪はないと云つても好い△女子は陰性で男子は陽性であ

る、夫れ故感化するにも男子の方は樂で女子の方は中々困難である△犯罪の直接原因は窮乏困難に因ることが多いが、男子は艱難に處した場合に奮發して善くなるが反對に罪惡を犯すか極端に走るが、女子は艱難の場合に必ず墮落すると決つてゐる其れと云ふのも天然の資本を持つて墮落さへすれば何も困難はないからである△女子が墮落して男子を誘惑して墮落させる、其又源は女子を玩弄物視する男子の了簡が悪い△何にせよ女性を高めればならぬ、夫れは教育を高めれば出来ぬ△其證據には男子の犯罪は廿五歳より卅歳迄の間に多い、夫れより以上は受けた教育が活用され思慮分別が出来て事業に就くから段々少くなる△女犯罪は廿歳より卅歳迄に多い、其以上になつても少くはならない四十歳五十歳の間にも却て多くなるのは誦り教育を受ぬから獨立的事業に従事する事の出来ぬ故である



2/4 ハ 調 二 拍 子 (此唱歌は京坂神聯合保育會  
に提出せられたるものなり)

5 5 1 0 | 5 5 1 0 | 6 1 6 5 3 | 2 1 2 3 0 |

5 3 1 3 | 2 2 5 0 | 6 5 5 | 1 0 ||

6 6 5 5 | 3 3 1 1 | 2 2 2 5 4 | 3 2 1 |

お 日 さ ま

一 あがるくお日様あがる  
ひかり うみ

二 照るはくお日様てるは  
ひかり うみ 東の海にまほゆく

三 はいるくお日様はいる  
ひかり うみ 高い空にきらめき

西の山にうすく  
にしやま

左様ならお日様  
さようなら ひさま

あしたまたお目に  
あしたまたお目に

福藏と貧助

硯山人

二

ある日のことで御座いました貧助が福藏の所へやつてまゐりました。

貧助「サテ、福藏さん。今日は外でもないがあなたには是非一つきいた  
いとができたので御邪魔に上つたのです。

と申しますと。福藏はニコくしながら。

「よく入らっしゃいました。サア、私の存じていますことなら何  
なり」と答へますので貧助は口籠りながら。

貧助「實は。あなたも御存じの通り私は多年貧乏です。それに引きか  
へどうもあなたは不思議にお金持になる之れはなんでも何んか御  
金をもうけるでんじでもあるにちがひがありますまいと思ひまし

たのでそれを今日は伺ひにあがった次第なのです。

之をききました福藏はやはりニコくしながら。

「ハ、ア。そんな事ですか。それは御安い御用です貧助さん。あなたですから何もかも御話し致しますが決してこの事を他言して下さってはいけませんよ。私が御金持になつたのにはそれはわけがあるのです。」

貧助は借はと云ふ顔をしながら膝をにじり寄せ。

「私も。どうも何かしさいのあると思つていました。で、そのわけと申しますのは。」

と乗氣になりてたづねますと福藏は落付き拂つて先づ一服と煙草を吸ひながら。



福藏サテ。その譯と云ふのは。」

奮助ぢれつたそうに「ハイその譯と云ふのは。」

福藏「私は二人の下男を使っています」

貧助驚いて「オヤどこに御宅の下男がいますか」

福藏「イヤ、その下男は人の目では見えません一人ははじめて私が家を持ました時雇ひ入れましたので勤儉と云ふ名の男ですこの男は外貌も悪し到つて口喧しい質でして朝は夜もまだろくく明ないうちから。ガア／＼云つて私を起しますし何か私が欲しい物があつて買うとすると「わたしの御友達を呼んでくる迄まあ御ひかへなきいと云つてはとめます。私はこの男がもとく善い奴だと云ふことを知っていますから何でもこの男の云ふなりになつていました。」

すると四五年たつて後の或日のとでしたこの男が黙つて出ていってしまいましたが、どうしたかしらと大層案じていますと翌日ヒョククリと歸つて來まして「兼々申し上げた私の友達を連れて参りました」と云ひますからどんな御友達かと見ますと大變きれいな風采をしたどことなく氣のきいた男じゃありませんか。で、私は大喜びに喜んで名前は何だときゝましたら「富貴」と云ふのだと答へました。

富貴と云ふ男はくるとすぐまづ臺所にいって「こんなとではいけない」と云ひながらその日から私は私に大層美味な食物を料理してくれました又衣服も相應に立派なのを買求めてきてくれます近頃は私に田地を買つてやるとしてしきりに働いています。この「勤儉」と「富貴」



香會

と云ふ二人の下男の爲めに私がこんな御金持になつたのです。」  
と申しますと貧助は羨まし相に。

「それは結構なとです所で甚だ申しかねましたがその富貴とか云ふ下男を一寸と私にかして下さいませんか。」  
とたのみました。すると福藏は首を振つて。

「イヤ、それは御氣の毒ですができません。まあはじめは御厭やでも勤儉の方を御雇いなさい。それから富貴の方を差上げますから。」

をかした物として勤儉と云ふ下男を雇つてない御家には富貴が参りません無理に富貴を引張つて参りますと二三ヶ月もたゝない中ちきに逃げていってしまいます。そしてそのあとは「借金」と云ふ大

變人の悪い下男がやつて参りまして道具でも何でも皆よそにもつて  
いってしまいます。

これをきいた貧助はブツ／＼云ひながら

私にはとても勤儉なんてしみつたれた男は使へないハイ左様なら、  
と怒って出ていってしまいました。

貧助はとう／＼一生涯貧乏で困難して暮しました。が福藏の方はど  
ん／＼と御金持になりましたとさ。めでたしく

### 慾ばつた罰

彌

彦

むかし或所に一人の大層慾の深いお爺がりました。このお爺さん  
慾の深いくせに或日自分の虎の子のようになしていた七百圓のお

金を財布に入れたなりおつことしてしまいました。

さあ大變お爺さんは青くなったり赤くなったりして探しまはりましたがどうしてもありません。そこでお爺さんはそこいら中にも私の財布を拾って届けた人には百圓お禮をすると云ひふらしめました。すると二三日たつて正直そうなお婆さんがこのお爺さんの所へやつて参りました。

「私が大層立派な。財布をひろひましたがもしや之れがあなた様のでは御座いませんか。」

と丁寧の一つの財布を懐から出してお爺さんに見せました。見ると自分ののですからお爺さんニコくして。

「ハイどうも難有う。之れが私のです。」

と云ひましたが忽ち心中に例の慾深い心を起しましてどうかしてこの老婆さんに百圓やらない工夫はないかしらというく考へましたが。

暫くして。

「たしかに財布は頂きました。唯今調べて見ました所七百圓御座いました。もとく之れには八百圓入れてをきましたのですから。ハ、ア。ではもう御禮金の百圓を先におとりになりましたのですね。」

と空とほけて言ひました。なんと悪ひお爺さんではありませんか。すると正直一方のお婆あさんは大層立腹しまして。

「とんでもない。私は拾ふとすぐもって参りましたので決して途

中でなかのお金などには手もふれは致しません。」

とハッキリ言ひきりましたが。お爺さんは中々きくません。

「それは。お前さんの業慾と云ふ物んだ。二百圓お禮にとろうとは  
圖太い。」

と云つてとうとう裁判所へお婆さんをひっぱっていきました。

裁判官は二人の申し立てをよくお聞とりになつた上。

「サテ、双方の申立にいつはりはないか。」

とお尋ねになるとお爺さんは。

「ハイ、く決して、くまちがひは御座いませぬ。私の財布にはも

とく八百圓は入つてをりましたので御座います。」と申しました。

お老婆さんは又お老婆で口をとんがらかして。



「私はひろひましてからすぐこのお爺さんの宅にもって上りましたので中のお金などには更に手もふれは致しません。と申しました。そこで賢明な裁判官はお婆さんが正直で可愛いそうだとお察しになったものですから。」

「ソレデハお婆さんが拾った七百圓入の財布はお爺さんが落したのとは別物なのに違ひがないですからお婆さんお婆さんが拾った財布の持主が出るまで大事にしまつてをきなさい。」

それからお爺さん。あなたは自分の財布を誰かゞ又拾つてくる迄おまちなさい。」

と云ひ渡しましたあまり慾張つたのでお爺さんは七百圓まるく損をしてしまいましたとさ。めでたしく

優等深大金色罐入

登錄商標 蜂印靴墨

香川縣博覽會に於て金牌を受領す内國製  
 產品評會に於て一等褒狀受領第五回内國  
 博覽會に於て褒狀を受領す



本品は稍高  
 價の如き感  
 ありと雖も  
 品質良好に  
 品質深大の  
 鏽入なれば  
 比較的廉價  
 なり本品は  
 本柔軟にし  
 を耐久にし  
 且耐量せし  
 水又少し使  
 用すなれば  
 澤を美しす

優等鷹印靴墨本舖

東京淺草區  
 諏訪町

松崎商店  
 特電話下谷千八百十八番

麝香とスレミとらばの香料を合む

**小判石鹸**

東京本町三寶堂發賣本電一五七

十二錢  
 二十錢

數年難治の慢性胃病を根治し  
消化機能を強壯健全にす 靈藥

# 胃病根治劑

從來世に胃病藥頗る多しと雖も皆一時の苦痛を凌ぐ制酸劑命重マダグ

の如き一時おさふムネスカシ的舊式賣藥のみにして未だ嘗て根治的効其病の基因を斷つ良藥あるを見ず本劑は獨逸國高名大醫ノール氏處方に基き本邦胃病患者に適切な最新有効藥を配合し百方實驗其奏効顯著なるを確證發賣せし最も進歩せる完全なる新藥にして數年難治の頑固慢性胃病本により根誓つて根治し消化機能を健全に強壯ならしめ食慾を催進し便通を快くし氣力を壯にし精神を爽快活潑にする空前の完全最新藥なれば從來種々雑多の胃病藥を用ひて効なく多

# 新輸入肉色白新劑

美容料 本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發明劑にして如何程色黒き男ゆれにも特別製成 純白色に變化を確證する世上種々難劑を用ひれば忍ち肉體 多の色白藥を用ひて奏効なき人は速に本劑を試み見よ眼前に峻烈なる特効を覺ゆ真に奇効顯著の確證新劑 價は並製金壹圓貳拾錢特別製金壹圓七拾錢

二藥專賣元 東京市神田五日新館藥房  
軒町拾九番地

# 月やくおる

本劑は胃腸を痛めず子宮を害せず如何程長き月經閉止も心す忽ち快通流

下する特効あり本劑參劑分を用ゆれば二三月間滯りたる月經にて下もキレイに流下す又特別製分を用れば半年以上の月經閉止及び血塊つ月經不通月經不順より起る子宮病血の道全治及惡血毒血を一掃するを確證す但し本劑は其奏効極めて峻烈顯著無害なり婦人諸君安心して試藥あれ價は壹劑分七拾錢貳劑分壹圓貳拾錢參劑分壹圓七拾錢特別製分貳圓貳拾錢(注意)本劑の大盛々怪しき無効な類似偽藥類はる用藥者は深く注意ありて(專賣元日新館藥房)に購求あらんとを乞ふ



# わきがが臭

根治確證 新發見藥

醫藥實験百方手を盡せし如何程臭きわきがにても誓つて根治し決して再發或は他頑固劇烈の慢性わきがにても試み苦惱を脱せよ價は輕症根治分六拾錢世組的改良根治新藥なり速に試み苦惱を脱せよ價は輕症根治分六拾錢重症根治分壹圓貳拾錢頑固劇烈の慢性根治分貳圓貳拾錢金印刻送藥す郵券代用必ず二割増の事

以上專賣元 東京市神田五日新館藥房  
軒町拾九番地 (電話下谷五四六番)

明治廿九年  
正月九日  
外

# 圖書目錄

無代進呈  
御二錢  
入御  
用の送  
方被  
は下  
郵度  
券候

及川泰治著  
齋藤松洲書  
藤島武二書  
赤松鱗作畫  
細畫數十個挿入頗美本  
家庭用初等教科參考書

**地理讀本**  
菊判クロース  
金文字繪畫入  
定價金六拾錢  
郵稅八錢

科學を面白く書いて、むつかしい教科書は厭き果てたる現今の教育界に裨益するものが無かつたのは残念であつた今此地理讀本は此欠陥を補はんが爲めに著者が多年の経験に鑑みて地球の發達より天文、地文、地質學を始め地理學一般の智識を尤も平易の筆を以て談話體に書き綴りたる有益なる家庭の讀物である、子女の校外讀本として家庭教育の教材として、又絶好の良書である、希くば子女教育に熱心なる教育家は勿論父母兄弟の一讀せられんことを

宮中御歌所寄人 中郎秋香先生著 増訂六版

**千草の錦**  
菊判和裝  
定價金六拾錢  
郵稅拾錢

此書は中郎秋香先生が三十餘年間讀書の餘暇、古學復興以來諸名家の文中金玉の響あるものを抄録せられしが積んで數十卷と成りしを、中に就て男女學生の模範となるべき美文、記事、紀行、論說、消息、物語體等無慮數百篇を選出せられ、之に加ふるに當代諸名流の文を以てせられ、特に上欄には要語數萬を載せ作習の模範と應用とに供せられしは、他に其比を見ざる最良の文鑑なり、國文學研究は是非一本を座右に供すべきなり

宮中御歌所寄人 中郎秋香先生新作  
華族女學校講師 小野鷺堂先生淨書

**新編手紙**  
木版半紙摺  
無類の美本  
男女各一册  
定價四拾錢  
郵稅四錢

本書は中郎秋香先生の新作にして書簡文獨習者の爲に通俗平易なる實用の文題百餘種を總振かな付にせられたるは他に其比を見ざる處、特に小野鷺堂先生が大字に書かれたれば習字の手本として此上もなき良書なり

**新編書簡文例**  
(用子男)  
木版半紙摺  
頗高尚優美  
男女各一册  
定價六拾錢  
郵稅六錢

**新編女子書簡文例**  
(用子男)  
木版半紙摺  
頗高尚優美  
男女各一册  
定價六拾錢  
郵稅六錢

本書の文例は現代の文豪中郎秋香先生の腦漿より迸出せしものなれば、一言一句津々たる趣味あり、繁に流れず簡に失せず、擬古に陥らず流俗に同せずして眞に今日書簡文の好模範たり、加ふるに書は筆硯界の巨擘小野鷺堂先生の手腕に成りしものなれば又習字の龜鑑として上乘の書なり、特に上欄類語數千句を掲げ書簡文を作習せんとする人をして、自由自在に意を達せしむるの便に供せられたるものなれば、新編書簡文法式と相待て斯道の完壁と稱すべきなり

發兌元 東中 京橋 市廣 京小 橋路 區六 前川文榮閣

日本女子大學校教授 松浦政泰先生著 ▲紙數二百頁 ▲總ふりがな付

(刊新) 女子修養叢書

# 娘と妻と母

菊判全一冊  
總價六拾美  
裝釘最麗  
定價六拾美  
郵稅不  
要

著者二十年の實驗を基礎とし 七十名家の卓説を引用し始めて體と徳と  
 藝と業とを説く女娘妻の母の寡婦の終りに分理想の家庭を論じたるもの  
 の學問體操遊戯修養職業問題女子の弱點學校の選擇結婚  
 婚問男女交際良人の選擇花嫁の心主婦の心良人の對する舅姑  
 に對する婢僕の使子女教育法惡兒矯正法隱居問題再婚問題老後の  
 勤幸福な家庭家訓家憲の如き千百の女子問題家庭問題女子娘り妻り母り  
 寡婦たる者は勿論父兄たる者必ず一讀

◎發兌元

東京本町

金港堂

書籍株式會社

◎

大阪市東區北久太郎町

金港堂支店

後付の四

▲注文の時爲替料も書留料もいらぬ便法あり端書にてお問合せ下さい

# 無代進呈

保姆の方には御申越し次第見本進呈

## ▲子供の氣質の見分け方

〔子供の癖を直すには其氣質の根本を見分けなけりや駄目です〕

成女學校學監 宮田修

## ▲妻君の尤もなる不平

〔妻君を呼んで馬鹿よまぬけよと、さて其主人公は……〕

關口安子

第九卷  
第二號  
九月號  
一日發行

# 明治の家庭

此雜誌は  
借りても  
お讀みなさい

### ▲ひんひん

口繪

### ▲可愛い話

門司はじめ

### ▲輕便なプランコ

東洋幼稚園長 岡山政子

### ▲客の菓子と三歳の子躰方

岸邊福雄

### ▲子供の育て方

三浦逸子  
(質問隨意、應答親切)

### ▲カラ、カフスの洗濯

大西壯太郎

### ▲隣の家庭下

津川海村

### ▲子供の喧嘩の捌き方

白紅

### ▲子供の便秘の直し方

醫學士 齋藤忍

### ▲犬の可愛がり方

入江院長

▲振替貯金番號六六五 ▲月一回 ▲六錢半郵稅共三十三錢半六拾錢

後付の五

明治の家庭の寶文館  
電話三三三  
本局三

東京市牛込區納戸町六  
東京市本橋區石町三

發行所

# 神戸頌榮保母傳習所

## 生徒募集

○今や經驗ある保母の招聘切りに來る依て

○當所保母志望者を募集す

○普通保母たらん者は二ヶ年修業

○主任保母たらん者は三ヶ年修業

○自費貸費生二途あり委細は郵便にて聞合ありたし

神戸中山手通五丁目頌榮保母傳習所

エ、エル、ハウ

# 歌集あけぼの

佐々木信綱氏選  
三宅克巳氏畫(クロース製美本)  
一條成美氏畫

現今の歌壇に清新の歌風を唱道せる竹柏會の俊秀が近作を、佐々木氏の精選せられしもの、短歌數百首新体詩十數篇。作者は川田順、石樽千亦、印東昌綱、大塚楠緒子、片山廣子、橘糸重子等十の才子才媛とす。戀愛を歌ひ、自然を詠し、悲哀の情を寄せ、幽遠なる思想を、し讀者をして例へば美はしき曙の野邊にさまよひ入るの思あらしむ。詩歌に志す人の好摸範憂ある人の慰藉者、或は旅中の友として綠蔭必讀の好詩集なり

正價金五拾五錢郵税金八錢

神田錦町二丁目十番地

修文館

文學士 北澤定吉先生著 ●再版

# 偉人耶蘇

洋裝 菊判  
總ク ロース美本  
全 一册  
正價 金七拾錢  
郵稅 金八錢

神祕説に同情を有してしかも知識を輕視せず、基督其人を教仰して、しかも基督教徒たらず、専心哲學を究めて宇宙の繼を解かんと欲す、かゝる立脚地にある著者が、鋭き批評眼もて四編學書を精讀し、一人としての基督は如何なる儀表を與ふるか一てふ趣味ある問題を究めて、新しき解釋を基督其人に與へしは本書なり。基督の人格を中心として、基督教の倫理を説き、實踐道法を論ず。議論正大文章優雅、讀まば正さに基督を地下に起してこれと語るの感あるべし。先づ己自らを修養し、身を以て弟子を率ひんとする教師諸君は、本書に於て好指導を發見すべし

發行所 東京市京橋區南大工町一番地

弘道館

(電話本局二八四〇番)

後付の七



# 家庭新教育書と無類の少年讀物

女子高等師範學校教諭 東 基吉先生著

## 日曜讀本

菊判形頗ル美本 口繪國觀、香雪挿畫數十種

▲未曾有の珍本である

前東京高等師範學校教授 樋口勘次郎先生著

## 強い日本

口繪尾竹國觀◎一條成美、挿畫 全一冊正價金十錢郵稅四錢

▲戰勝紀念少年の有益な讀物

樋口蘭林先生作○宮川春汀口繪挿畫

## 歴史熊襲征伐

全一冊 正價金十錢 郵稅四錢

△これまで類のない珍本である  
△家庭でも學校でも芝居が出来て面白き本

後付の八

樋口勘次郎先生著 國觀春汀畫

## 日本の覺悟

▲菊判形頗ル美本口繪挿畫十數  
個入價金十五錢郵稅四錢

樋口蘭林先生作○宮川春汀畫

## 歴史 入鹿退治

○菊判形全一冊口繪挿畫六葉挿  
入價十五錢郵稅四錢

農學士吉村清尚先生著  
國觀○禾 月畫口畫

## 米の話

△菊判頗ル美本口繪十數度採色  
石版挿畫十數個定價十五錢

從來發刊せしか伽噺と同一視す  
る勿れ弊店發兌の少年讀本は未  
曾有の仕組で兒童をして面白  
御噺を見る中に知らず識らずの  
間に頭腦に新空氣を注入する方  
法なり

東京電話 橋本區南大町一丁目番地 弘道館 發兌元

# 教育家の必讀書



## ▲ 輓近の新好著 ▼



醫學博士 瀨川昌耆先生校閱  
福岡縣師範學校主事 織田勝馬先生  
長崎縣立高等女學校教諭 白土千秋先生

合著

# 小學 劣等生救済の原理及其方法

## 好評四版發賣

洋裝菊判形全一册 (正價金六十錢 郵税金六錢)

近時教育に關する諸般の研究殆んど至らざるなし然るに獨り劣等生に關する根本的研究と之が救済法たる實濟的攻究とに關し會て好著の公にせられたるものあるを見ず而も該問題に對する現今實地教育家の態度は宛も大早に雲霓を望むが如きものあり蓋本書は時運の產物と見る可きものなり乞ふ左の條記に依て本書の價値の一斑を推知せられよ

△ 本書は先づ劣等生の意義を確定し之が救済上の教育的可能を論せり

△ 本書は劣等生に關する各種の原因を詳に探究し之に對する教育的取扱法を極めて實際的に説

述せり

△ 本書は劣等生救済に關する教育的任務と醫治的任務との區別を明かにせり

△ 本書は劣等生救済法として的人格變換論を説述したり

△ 本書は劣等生取扱法に關する諸方案并に特殊教授法及各教科目につき教授上の實驗的注意を

詳述せり

發 兌 東 京 電 話 橋 本 區 南 大 工 町 一 番 弘 道 館

廣島高等師範學校教授

全

吉田信太先生作曲  
藤藏先生作技

〔修正第七版出來〕

國定

讀本

# 唱歌遊戯教授書

尋常科の部

洋裝菊判形頗ル美本

正價金八十錢郵稅十錢

第五版第六版購求者に稟告す

曩に發行せし第五版第六版は弊館印刷所三協合資會社に印刷せしめ既に賣切の處其后該兩版の内間々間違あるを發見致候に付右訂正之爲先般來著者に乞ふて精密なる修正を遂げ今般**修正第七版**を發行仕候に就ては右第五版第六版御購求せられし方は御郵送被下候はゞ**早速御取替**可申此段稟告仕候也

發行所

東京京橋區南大工町一番地

弘道館

關西特約店

大阪市東區南本町四丁目

積文社

電話本局二八四〇

# 家 庭 の 讀 物

中村春雨著

## 新約物語

装帖極美箱  
入金壹圓  
小包料拾錢

美麗三色版六葉、泰西名畫寫真版 二十四葉挿入

斯書は耶蘇教の經典、新約全書を極く平易に通俗に書き崩して、耶蘇新教の紀元から發達からエス、キリストの御一代、使徒遠の事及び其教理新條等に至るまで高遠深玄なる意味をお小供方にまで分るやうに説いてあります、また耶蘇教のどんなものかを知らない人、聖書の難解しさに苦む人々は是非此書によつて導く事が出来ますから傳道用としても亦最上の書であります、總假名附で美しい繪畫が三十葉も挿入つてゐますし、又とない美しい光彩のある書であります

中村春雨著

舊約物語

近刊

中村春雨著

小花草

金七十錢 郵稅拾錢

小密航婦

金七十錢 郵稅八錢

木下尙江著

小火の柱

金卅五錢 郵稅六錢

小良人の自白

全四册

上中下各篇卅五錢 郵稅各六錢  
續篇 金五十五錢 郵稅八錢

大倉桃郎著

小舊山河

金六十錢 郵稅八錢

小琵琶歌

金六十錢 郵稅八錢

發兌元 東京五郎兵衛橋區 金尾文淵堂

未だ本誌を讀まざる婦人あり

實用專一

# 婦人世界

日本第一

九月三日發行 第一九號 郵稅五拾錢 郵年分半九錢 壹年錢七拾 五錢

口 山階宮姫宮若宮殿下尊影  
◎花探る少女◎湖畔の絶景◎  
◎名家新婚寫眞◎其他數枚◎

## 東郷大將の母堂は如何なる人ぞ

△雄々しき氣象△家庭教育に大苦心△其心掛は如何△其覺悟は如何  
△其慈心愛腸△思慮の周密△珍らしき婦徳△其健康法

## 婦人如何に寫眞を撮る

●見合ひの寫眞は如何に寫すべきか  
●寫眞の註文は如何に寫すべきか  
●小兒の寫眞は如何に寫すべきか

## 弦齋夫人の料理談

●里芋は如何に料理するか  
●彼岸の御馳走は何が宜きか  
●油揚げは如何に料理するか  
●鰯は如何に料理するか  
●午前は如何に料理するか  
●梨は如何に料理するか  
●葛煉りは如何に作るか

### 走馳御な輕手

△彼岸の御馳走は何が宜きか  
△油揚げは如何に料理するか  
△鰯は如何に料理するか  
△午前は如何に料理するか  
△梨は如何に料理するか  
△葛煉りは如何に作るか

彩色石版中澤弘光 繪手本花跡見  
後付の十二

## 初秋に於て育兒の注意

●寝冷えは如何に豫防すべきか  
●秋口は何の病氣に罹り易きか  
●食物は如何に注意すべきか  
●母体は如何に注意すべきか  
●子を愛する母は讀め(加藤ドクトル)

## 消渴は如何に豫防すべし

●本誌愛讀者に婦人病患者なし(伊庭學士)  
●我が家の貯金實驗……秋山錦子  
●清國婦人の見たる日本人の生活……  
●男爵高木博士の家庭……

## 婦人の日常生活法

●衣服は如何に着換ふべきか  
●婦人は如何に嗜むべきか  
●晩食は如何に用意すべきか  
●食物の分量は如何にすべきか  
●食物の性質は如何に宜きか

## 日本國中なる婦人雜誌

●食事は如何の作法があるか  
●食物は如何に消化さるるか  
●水は如何に飲むべきか  
●菓子は如何に食すべきか  
●食後の含嗽は如何にすべきか

## 大文字

斯くの如き大文字はありません

郵便替振替金座(六番) 賣捌店 全書

發行所 東京 南橋 二町 實業之地 本日之業實